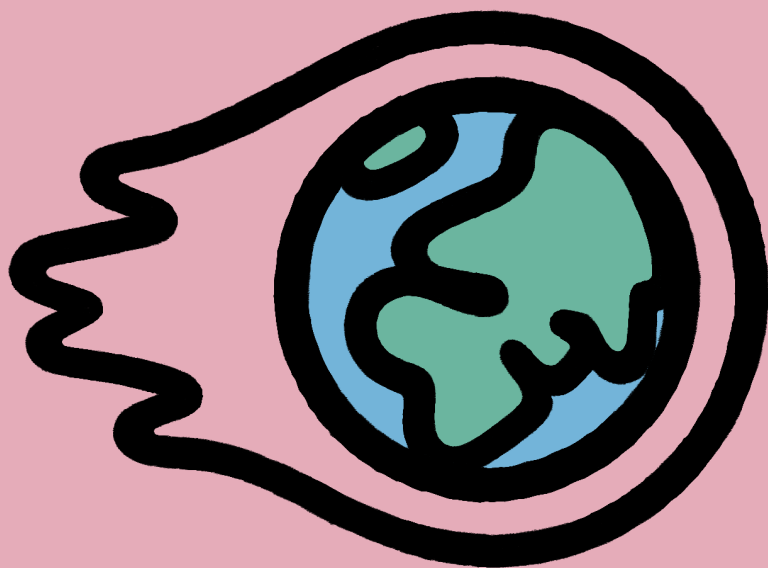


HANDBOOK 留学ハンドブック for STUDY ABROAD

Tama Art University
International Exchange Section

2026





HANDBOOK 留学ハンドブック for STUDY ABROAD Tama Art University International Exchange Section 2026

留学って、なんだろう？

- 4 留学って、私にもできますか？

留学って、どうすればできるの？

- 10 留学制度の種類
- 12 交換留学
- 18 コラム『留学経験者は就活をどうやって乗り越えた？』
- 20 ダブルディグリー
- 22 多摩美 TRY
- 28 留学実現のための5ステップ
- 30 留学実現のためのポートフォリオ制作
- 34 留学実現のための語学力UP in 多摩美
- 36 留学実現のための実践力UP
- 38 様々な留学① 私費留学
- 40 様々な留学② 海外大学院進学
- 42 様々な留学③ アーティスト・イン・レジデンス
- 44 様々な留学④ ワーキングホリデー
- 46 コラム『あの頃をふりかえって...』

国際交流課って、どんなところ？

- 50 国際交流課
- 52 語学サポート・イベント
- 54 対談 MANIWA's ROOM
- 58 渡航に向けての準備
- 59 安全対策リンク集・奨学金情報
- 60 留学FAQ

留学って、私にもできますか？



Q 留学って、あまりピンとこないのですが…？

A 加藤理子 芸術学科 卒業
私費留学：プラット・インスティテュート

将来の夢を実現するために、日本国内では探せない学びの機会を見つけられるのが留学の意義だと思っています。もちろん留学意義は大学の授業だけではありません。海外に行く「本気で心を動かされる瞬間」に出会うことができます。これは自分の表現の幅を広げるためには大切な経験だと思います。また、海外に出ることで、逆に日本の魅力を再確認することもできます。夢を実現するために自分に足りないものを考えて、それが海外で手に入るなら、迷わず留学という選択肢を選んでください。得るものが必ずたくさんあるはずですよ！

Q 留学の手続きって、大変そうじゃないですか？

A 三井悠華 日本画専攻 卒業
大学院進学：国立台湾芸術大学

留学を実現するためには、成績証明書や語学テストのスコアに加え、教員の推薦書、ポートフォリオなどの提出が求められます。さらに出願後は、学生ビザの申請などもあります。これらをすべてひとりで……と思うと気が遠くなりますが、国際交流課で相談しながら、着実にステップを踏んでいけば、必ずクリアできます。留学が気になるなら、早めに国際交流課へ！



Q 英語に自信がないんですけど、大丈夫ですか？

A 鍋島柚葉 油画専攻 卒業

多摩美では、目的や語学力に応じて英語のカリキュラムを選択することができるので、授業で着実に力をつけていくことができると思います。

しかし、私の場合は、もう少し自分に合ったやり方で英語を学びたくて、国際交流課でコーチングを受けました。コーチングを利用することで英語の苦手意識がなくなりました。職員さんに自分の希望に応じた学習プランを立ててもらったり、指導してもらっていたので、ひとりでも勉強に向き合うことができました。



Q 留学はちょっと、ハードルが高い気がします。

A 摩庭啓人 国際交流課

留学に興味があるけれど、心配事や不安があって諦めてしまっているという人も多いと思います。そんな学生の皆さんは、まずは気軽に国際交流課へ相談しに来てください。一人ひとりに合った留学先や留学プログラムと一緒に考えるところから、利用できる奨学金制度の紹介、語学力の向上まで学生の目線に立ってサポートします。職員が英語・中国語・韓国語を教えるコーチングでは基礎から語学を学ぶことも可能です。また、留学先の国や留学の目的がはっきりしていなくてもOKです。「なぜ留学に行きたいのか」というところから掘り下げていきましょう。国際交流課はオープンな雰囲気、誰でも出入りできます。ぜひこの環境を活用してください！

Q 留学中の食生活って
どんな感じなのでしょう...？

A 齋藤由季 油画専攻
交換留学：シラハコーン大学

タイは屋台で食べる文化が盛んで、一食 150-300 円くらいで食べることができます。夜にはキャンパス内で毎日マーケットが開かれていて、便利です。特に私の滞在している地域は郊外のため、比較的安いです。また、ナコンパトナム校舎には広い食堂があり、朝、昼はよく利用しています。値段は屋台と同じです。レストランはタイ料理だと 500 円前後、他国の料理だと 1000 円程で、日本とあまり変わらない値段に思います。屋台もレストランも色々な料理があるので、食には困らないと思います。日本食も多い印象です。色々挑戦してみるといいと思います。私のお気に入りにはクイットピアオという米粉麺の辛い混ぜ麺です。一方で自炊は高くつくと思います。寮には共用キッチンがありますが、十分な設備ではなく簡単な料理になります。そして、タイ料理の食材以外は輸入が多く、日本より高い食材も多いです。たとえば、ヨーグルトが一番安いものが 400g で 450 円程でした。

私がタイの食事で最も注意すべきだと思うのは、辛さです。赤い料理は見た目通りの唐辛子の辛さのことがほとんどですが、グリーンカレーやサムタムのように見た目はあまり辛く見えないのに、激辛ということもあります。このタイプの辛さは唐辛子とはまた違い、刺すような辛さでかなりハードルが高いです。事前にお店の人に聞くことをお勧めします。



毎週水曜日に開かれる学校内のマーケットの様子

Q 住む場所を探したり、実際に海外
に住むのって大変ですか？

A イ ジュンヒ 大学院 版画領域
交換留学：国立高等装飾美術学校

私はパリにある国際大学都市 (Cité Universitaire・シテユニバシテー) で留学生活を送りました。シテは、修士・博士課程の学生や研究者を対象に宿泊施設を提供している場所です。その名のとおり、広大な公園を中心に、ひとつの村のように学生寮が配置されています。韓国館、日本館、ドイツ館、スウェーデン館など、各国の特徴をコンセプトに建てられた寮の建物が点在しているのが特徴です。留学準備の段階から、パリは住宅の賃貸が難しいと聞いていたため、交換留学の合格が決まった後、すぐに国際大学都市の入居準備を始めました。入居には書類審査があるため、できるだけ早く書類を準備し、提出期間内に申請することが重要でした。この場所の最大の魅力は、他大学に在籍する異なる専攻の学生たちと交流できること、そして安全な環境が整っている点です。私が居住していた 2025 年には、シテの広い庭園にファッションブランド LOEWE のファッションショー会場が設置され、2025 年パリ・ファッションウィークの期間中にショー会場として活用される様子を見ることができました。また、シテ内のスポーツクラブも活発に運営されており、クラブに加入してスポーツを楽しむことも可能です。さらに、ハロウィンやクリスマスなどの特別なイベントの際には、各建物の居住者たちと一緒にイベントを楽しむことができ、それらすべてが大切な思い出となりました。



国際大学都市の様子

Q 外国で友達を作れるのか、
とても心配です。

A キム グリン テキスタイルデザイン専攻
交換留学：チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ

私の場合、さまざまな文化圏の人が多く留学しているイギリスで交換留学をしていたため、アジア人が自分一人だけ、あるいは韓国人や日本人が自分一人だけという状況ではありませんでした。そのため、必要以上に目立つことなく、比較的自然な形で友達を作りやすかったと感じています。また、異なる人種や文化的背景を持つ人たちと日々過ごす中で、それぞれの特徴を理解し、相手に合わせた関わり方を少しずつ身につけることができました。

そして、友達作りにおいて最も大切だと感じたのは、言語面で決して消極的にならないことです。文法が間違っているのではないかと、発音が良くないのではないかと気にしすぎてしまうと、会話がごちこちなくなり、相手も声をかけづらくなってしまいます。外国人留学生という立場を前向きに捉え、間違いを恐れずに自信を持って話すことで、その姿勢自体が魅力となり、「もっと話してみたい」と思ってもらえる存在になれるのではないかと思います。



チームメンバーとの集合写真

Q 留学先での授業以外に、
どんなことができますか？

A 鷲山響 プロダクトデザイン専攻
交換留学：ベルリン芸術大学

ベルリン芸術大学には美術学部だけでなく、音楽学部も併設されています。交換留学生は学期初めのオリエンテーションやドイツ語の授業を通して、音楽学部の学生と知り合う機会があります。音楽学部ではクラスごとの演奏会やコンサートが頻繁に開催されており、学生による演奏を身近に鑑賞することができます。日本ではこれまであまり触れる機会がなかった音楽に多く接することができたことも、印象的な経験の一つでした。

中でも、実際に会場で生演奏を聴くことができた経験は非常に大きく、音の迫力や空気感、演奏者の集中力を間近で感じることで、録音や映像では得られない強い刺激を受けました。11 月には学生オーケストラによるコンサートがベルリン・フィルハーモニーで開催され、私も鑑賞しました。そのオーケストラには、普段同じドイツ語の授業を受講している学生も参加しており、同年代の学生が大舞台上で演奏する姿に強い印象を受けました。音楽という異なる分野でありながらも、真摯に表現に向き合う姿勢から多くのインスピレーションを得ると同時に、自分の制作に対する意識を高める貴重な機会となりました。



ベルリンフィルハーモニーで行われた学生コンサート

留学制度の種類

一口に「留学」と言ってもさまざまな種類があります。
それぞれの方法のメリット、デメリット、留学可能な大学などをチェックして自分に合った留学方法を見つけましょう。

	交換留学	ダブルディグリー	多摩美 TRY メルボルン	多摩美 TRY ホノルル
留学先	海外協定校	シラバコン大学	Insight English Academy	ハワイ大学マノア校
応募枠	募集要項を参照 (各校につき1~2名)	最大2名	10名	10名
言語	英語もしくは現地語	英語 タイ語を学ぼうとする 強い意欲	英語	英語
語学力	1次選考 (多摩美学内選考) TOEIC 520点以上 TOEFL-iBT 41点以上 IELTS - Academic 4.0以上 2次選考 (協定校による選考) 協定校によって 求められるスコアは異なる	IELTS-Academic 4.5以上 TOEFL iBT 41点以上 TOEIC 520点以上 DUOLINGO 80以上	なし	なし
留学期間	1学期 (協定校によって異なり 3~6ヶ月間)	学位取得のため2.5年 現地には約1年滞在	2週間	2週間
対象学年 (渡航時期)	学部3年後期 修士1年後期 研究室の許可があれば 学部4年・修士2年可	修士1年後期	学部1・2・3年後期	学部1・2・3年後期

※本学の制度を利用せず、私費留学をすることも可能です。私費留学では、渡航先や学校は自由に選べますが、手続きは自己責任で行う必要があります。また、長期留学の場合、休学が必要となる場合があります。

	交換留学	ダブルディグリー	多摩美 TRY メルボルン	多摩美 TRY ホノルル
募集要項 公開時期	渡航前年度の 6~7月	渡航前年度の 2~3月	9月	8月
応募期間	渡航前年度の 10~12月	渡航年度の4月	実施年度の9月	実施年度の8月
GPA	2.3以上	特に定めなし	2.3以上(1年生は不問)	2.3以上(1年生は不問)
学費	多摩美の学費のみ (協定校の学費を払う必要なし)	多摩美の学費のみ (協定校の学費を払う必要なし) 3年目の多摩美の 学費0.5年分が助成される	多摩美の学費 + 現地校の学費 45万円	多摩美の学費 + 現地校の学費 60万円
奨学金	多摩美から 交換留学生奨学金 支給(20万円)	外部奨学金の可能性あり	多摩美から支給(10万円)	多摩美から支給(10万円)
卒業時の 教員免許 取得	不可	不可	可	可
卒業時の 学芸員免許 取得	不可	不可	可	可

※制度内容は見直される可能性があります。正確な情報については募集要項を参考にご覧ください。

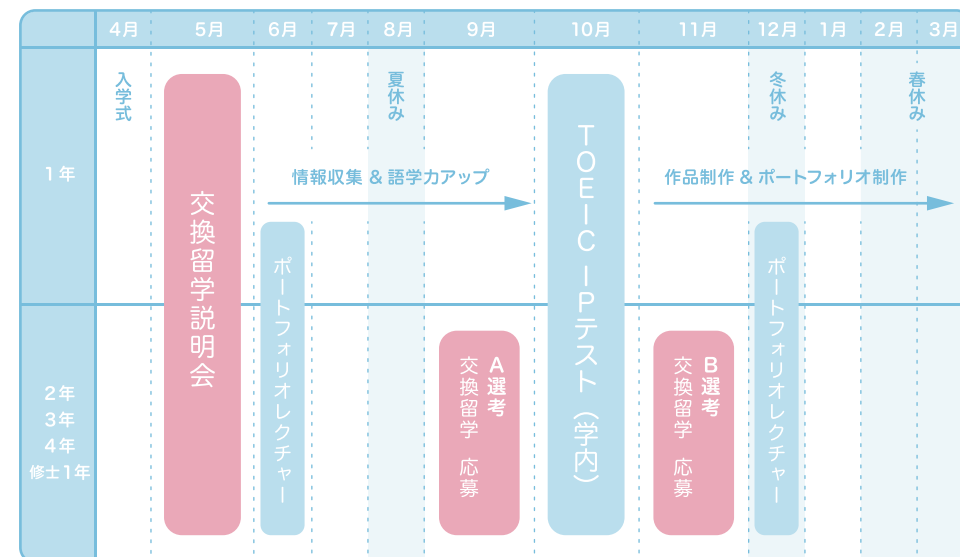


交換留学

交換留学制度とは、多摩美術大学と交換留学協定を結んでいる海外大学との間で約半年間、学生を相互に派遣・受入する国際交流プログラムです。本制度を利用した学生は、将来的にグローバルかつクリエイティブな人材として活躍することが期待されています。

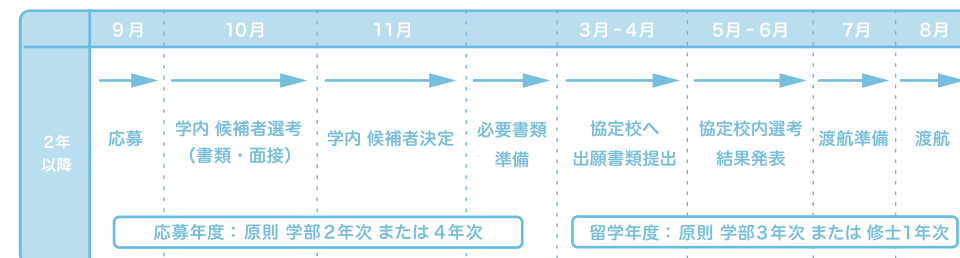
また留学中は、本学に授業料を納めることで、協定校（留学先）の授業料は免除されます。さらに派遣先大学における学習成果物に基づき、本学が適当と認めた科目（原則として所属学科・専攻・コースの進級必要要件科目）の単位が認定されます。このように交換留学制度では、留年することなく留学を実現することができます。交換留学の選考試験は甘くはありません。少しでも興味がある学生は、早めに国際交流課職員に相談をしましょう。

入学から応募までの準備

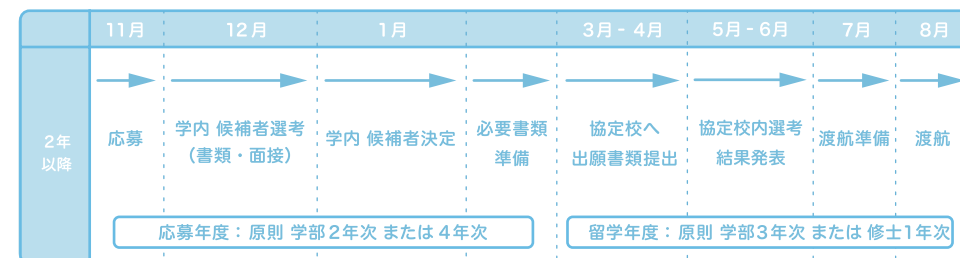


応募から交換留学までの流れ

A選考 (特定の学科・専攻・コースに開かれた選考)



B選考 (より多くの学科・専攻・コースに開かれた選考)



交換留学対象学科・専攻・コース

B：派遣時に学部3年生 M：派遣時に博士前期（修士）課程1年生*

募集	協定校		推薦人数 (合計38名)	留学期間*2 (1学期)	日本画	油画	版画	彫刻	工芸	グラフィック	プロダクト	テキスタイル	環境・建築	情報 (又芸・情テ)	芸術*1	統合	演劇舞踊 (演舞・劇美)	
A 選考	ベルリン芸術大学	ドイツ	各1名(計4名)	10月～翌2月							BM		BM*3	BM 各コース1名				
	オスロ国立芸術大学	ノルウェー	1名	8月～12月								BM						
	ヨーテボリ大学	スウェーデン	1名	9月～翌1月							BM*4							
	チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ	イギリス	PD 1名 TD 2名	9月～翌2月							B	B						
	グラスゴー美術学校	イギリス	2名	9月～翌1月								B						
	ナショナル・インスティテュート オブ・デザイン	インド	2名	12月～翌4月									BM					
	シンシナティ大学	アメリカ	1名	8月～12月								BM						
B 選考	シラバコーン大学	タイ	2名	11月～翌4月上旬	BM	BM	BM	BM										
	弘益大学校	韓国	2名	8月～12月	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	
	ソウル大学校	韓国	1名	9月～12月	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	
	中央美術学院*5	中国	2名	9月～翌1月	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM		BM		
	国立台北芸術大学*6	台湾	1名	9月～翌1月	BM	BM	BM	BM		BM			BM	BM	BM	BM	BM	
	国立台湾芸術大学	台湾	1名	9月～翌2月	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM
	ヘリット・リトフェルト・アカデミー	オランダ	2名	9月～12月	B	B	B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	
	ベルリン芸術大学	ドイツ	2名	10月～翌2月	BM	BM	BM	BM										
	国立高等装飾美術学校	フランス	2名	9月～翌1月	BM	BM	BM	BM	BM		BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM
	アアルト大学*7	フィンランド	2名	8月～12月	BM	BM	BM		BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	
	オスロ国立芸術大学	ノルウェー	1名	8月～12月								BM		BM*10				
	ヨーテボリ大学*7*9	スウェーデン	1名	9月～翌1月				B	B				B	B	B	B		
	ローザンヌ美術大学	スイス	2名	9月～翌1月			B			B	B	B	B	B		B		
	ウィーン応用美術大学	オーストリア	2名	10月～翌1月			BM		BM		BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM*8
	シンシナティ大学	アメリカ	1名	8月～12月	BM	BM	BM	BM	BM	BM	BM		BM	BM	BM	BM	BM	
	プラット・インスティテュート	アメリカ	2名	8月～12月	B	B	B		B	B	M							

※"B"が記載されている協定校へ学部4年次に留学を希望する者、あるいは"M"が記載されている協定校へ修士2年次に留学を希望する者は、卒業・修了制作時期と留学期間が重なることについて、研究室および担当教員に相談し、許可を得ることができれば応募可能。

※1. 芸術学科の学生派遣については、作品制作を行っている学生が主な派遣対象となる（理論系プログラムへの応募の場合は、制作活動をしていなくても良い）。

※2. 派遣時期については、変更となる可能性がある。

※3. 建築専攻の学生のみ派遣対象とする。

※4. 修士課程については、Child Culture Designプログラムのみ応募可とする。

※5. 派遣先学科は「建築、設計、実験芸術、版画、油画、壁画、彫刻」のいずれかであり、特に高い中国語能力が求められる。

※6. Department of Theatrical Design and TechnologyおよびDepartment of Theatreに応募する場合は、特に高い中国語能力が求められる。

※7. 派遣先学科に各制限があるため、最新の募集要項（例年6-7月公開）を必ず確認すること。

※8. 演劇舞踊デザイン学科の派遣対象は、劇場美術デザインコースの学生のみとする。

※9. アトリエにスペースがある場合のみ、本学学生の受入を実施している。これまで、本学の学生は高い確率で受入を拒否されている。特例的に時期を変更して学生派遣を実施したこともあるが、2026年度も同様の対応ができるとは限らない。

※10. 2026年度よりInterior Architectureのみ応募可。

内容は変更になる可能性がある。毎年6～7月に国際交流センターのWebページで公開される最新の募集要項を必ず確認すること。

交換留学 体験記

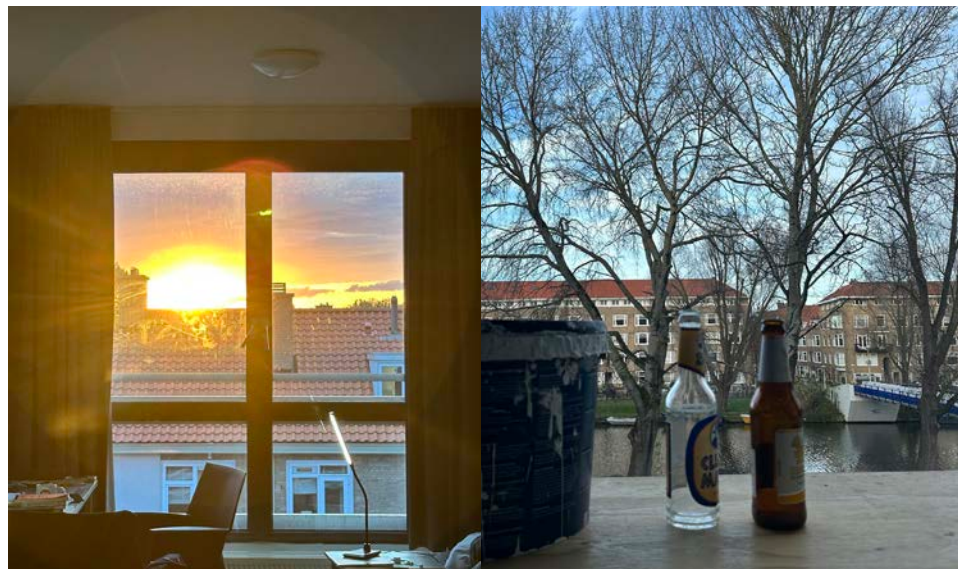
よく耳にする「交換留学」。でも、実際どんなものなのかはよくわからない…。
交換留学を経験した3人の先輩の体験記を読みましょう。



横山 日菜

日本画専攻
交換留学：ヘリット・リートフェルト・アカデミー

留学は良いことも悪いことも含めて
多くの視点を与えてくれる。



寮から見える夕日

アトリエから見える冬の景色

海外旅行の経験もなかった私にとって、留学はずっと憧れてきた。ある日突然、「世界を知りたい、外に出たい!」という気持ちがあふれ、「あー、日本出てえ!」と思ったことが交換留学を志したきっかけです。語学学習では、とにかく英語に触れる環境をつくることを意識し、スマホやパソコンを英語設定にして、日本語をできるだけ減らしました。英語を堅い「言語」として捉えるのではなく、感情に合わせて使う生きた言葉として向き合うよう心がけました。

留学を通して、アーティストとしての生き方や人間関係の築き方、失敗することの大切さを学び、完璧な

くていいという価値観に出会いました。また、人種や性別、年齢を越えた大きな愛を受け取り、今度は私がそれを伝えていきたいと強く思うようになりました。

留学は良いことも悪いことも含めて多くの視点を与えてくれます。不安を抱えている人や自信のない人こそ、恐れず一歩踏み出してほしいと思います。世界があなたを待ってます!がんばれ!

カク ヨウ

大学院 情報デザイン領域
交換留学：ウィーン応用美術大学



自己を開き、他者と対等かつ率直
に对话する姿勢を身につける。

私は、自己探求と将来的に学術に貢献したいため、学生の思考力と総合的な能力を重視するウィーン応用美術大学を選びました。幼少期から東アジア文化の影響を受けて育つ一方で、その限界も感じていました。そこで、異なる文脈における美術教育のあり方を当事者として理解したいと考え、留学を決意しました。

語学学習については、ポッドキャストを通じて芸術分野の専門的な語彙を学びました。加えて、英語交流プラットフォームにも参加し、英語で思考を組み立てる練習を継続してきました。語学学習とは、母語話者のような流暢さを目指すことではなく、言語を通して自己や世界を観察するための「メガネ」を獲得することだと思います。

こうした背景を前提に、今回の交換留学を通じて多角的な学びを得ることができました。まず、今後の研究の基盤となるテーマが定まりました。また、日常的な行動規範や、人生の軌道が定まり、さらには未来社会への関与など、「生き方の可能性」そのものに対する認識も深まりました。

そのため、これから留学を目指す方々に対しては、留学の各段階において、自身の選択を継続的に思考し、比較することの重要性を強調したいと思います。自己を開き、他者と対等かつ率直に对话する姿勢をぜひ身につけてください。



学校の本館ホール

アキ ガブン

劇場美術デザインコース
交換留学：台北芸術大学



留学を通して「問いを立てる」
ことの重要性を実感した。



旅行写真

私が台湾への交換留学を志した理由は、中国出身で日本に留学している立場として、同じ文化圏に属しながらも異なる背景を持つ台湾の演劇を、別の視点から観察したいと考えたからです。そこで、自身を演劇創作者として改めて見つめ直し、視野を広げたいと思いました。台湾の前衛的な演劇の雰囲気や社会の包容性は、演出と舞台美術の関係を理解する上で大きな魅力でした。

言語面では、同じ中国語であっても専門分野を中国語で学んだ経験がなく、環境に慣れるまで時間を要しました。しかし、この言語的な利点を活かし、日本での学習の中で十分に理解できなかった内容を、より深く考え直すことができました。

今回の交換留学を通して、物事を多角的に捉え、「問いを立てる」ことの重要性を実感しました。演劇創作にはテキスト、身体、社会的背景などを総合的に考える視点が必要であると感じています。今後は、この経験を自身の演劇および舞台制作に活かしていきたいです。

交換留学を目指す学生には、柔軟で開かれた姿勢を持つことが大切だと思います。新しい環境で自分と周囲を受け入れることで、留学中の経験はかけがえのない宝物になるはずです。

column

留学経験者は 就活をどうやって乗り越えた?

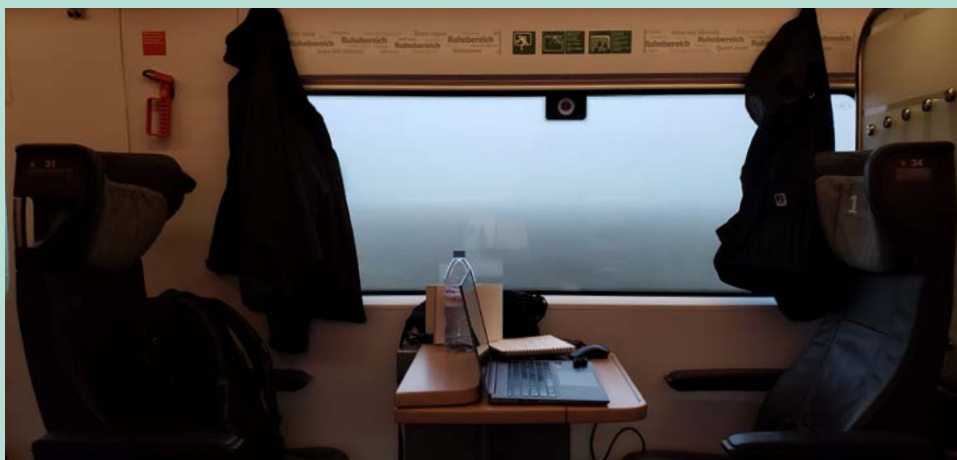
時間の捉え方で就活は変わる



大内田 光

大学院 建築・環境デザイン領域 修了
交換留学：ベルリン芸術大学

**留学を守る前提で就職活動を
設計したことが結果につながった。**



フランスへ移動中の作業風景

自分の留学にあった就活を考える

留学経験があると就職活動は有利なのか。正直に言えば、必ずしもそうとは言いきれません。私は「留学と就活はセット」「海外経験があれば評価される」という前提を置きませんでした。交換留学やトビタテ奨学金の準備は渡航前から始まり、申請やビザ取得など多くの時間を要します。渡航そのものがゴールではなく、その前後も含めて長い時間軸の中に留学はあります。その過程で、自分は国内就活生や一年以上留学する学生と同じ進め方を再現する必要はない、と考えるようになりました。

建築業界には留学経験者向けの採用機会もありますが、半年間の留学では日程が重なり参加できないことも多くありました。周囲に合わせることも、自分の状況

に合わせて選択することの方が重要だと感じました。そこで夏季インターンは四社(竹中工務店、日建設計、大成建設、三菱地所設計)に参加しながら業界理解を深め、本採用試験は時間制約から一社に絞る決断をしました。数を受ける安心感を手放すことには迷いもありましたが、準備にかけられる時間を最大化することを優先し、第一志望だった竹中工務店設計部インテリアデザインに集中しました。また夏インターンに参加したときや、インターン不参加企業に対しても留学に行くため選考時期に漏れる旨を留学前に伝えておくことはとても重要です。事前内定を見越した特別面接を実施してくださる企業や留学を経て入社した先輩社員さんとお話する場を設けてくれる企業もありました。発信することで解決策

が見つかることも多いので、是非実践してみてください。

時間の捉え方

留学中の本採用試験で最も落ち込んだのは設計試験でした。明らかな準備不足で、自分でも失敗だと分かる内容でした。海外で制作課題に取り組みながら日本の採用試験に向き合うことは想像以上に負荷があり、限られた時間の中で何を優先するのか常に判断が求められました。それでも二次面接で挽回できるよう徹底的に準備しました。

実はその土台は、留学前から続けていた積み重ねがありました。奨学金応募やコンペへの挑戦を通して自己PR文やポートフォリオを更新し続け、同じアイデアを異なる視点でブラッシュアップすることで、自分の強みを言語化してきました。その継続があったからこそ、設計試験で思うようにいかなかった後も、軸を失わずに準備を続けることができました。

留学中の一日はやり直せません。制作や現地での経験を優先するため、移動時間を活用しました。電源やWi-Fiのある特急のファーストクラスを選び、応募資料を作成することで、移動そのものを準備時間に変えました。少しの追加費用で集中できる環境を確保することは、限られた時間を守るための投資だと考えています。

また、選考直前にまとめて準備するのではなく、留学前から留学中、そして試験直前まで同じペースで更新を続けることを意識しました。小さな改善を積み重ねることで、大きな不安に振り回されずに済んだと思います。

留学を大切にしながら結果としての就職活動

こうした積み重ねの結果、留学中に一時帰国して本採用試験に臨み、第一志望であった竹中工務店より内定をいただきました。就職活動のために留学を犠牲にしたのではなく、留学を守る前提で就職活動を設計したことが結果につながったのだと思います。

留学期間中の就職活動は誰にでも勧められる方法ではありません。帰国後に取り組み満足いく結果を得る人もいます。一方で、早い段階から準備を重ね、限られた時間を自分で設計できる人には向いているかもしれません。留学経験は魔法の切符ではありませんが、環境の整え方と継続次第で確かな力になります。この経験が、自分なりの進め方を考えるきっかけになれば幸いです。



在学中1：修了制作作品の上に座る



在学中2：修了制作作品のプレゼンテーション



ダブルディグリー

多摩美術大学は、国際社会で活躍する人材を育成するため、修士課程にダブルディグリープログラム（Master's Double Degree Program: 以下MDDP）を設立しました。本プログラムでは、本学と海外の協定校で学び、修了時に二つの学位を取得できます。

2024年4月、本学はタイのシラパコーン大学とMDDP協定を締結し、2025年度より最大2名の学生募集を開始しました。参加学生は両大学の正規学生として2.5年間の専用カリキュラムを履修し、修了時にそれぞれの修士号が授与されます。また、本学に2年分の学費を納めることで、半年分の学費が助成されます。

タイは、長い歴史の中で育まれた独自の文化を持つ国として知られています。そして、BAB（Bangkok Art Biennale）などのアジアを牽引するアートイベントの開催地として近年盛り上がりを見せています。ぜひこの機会に海外での学びに挑戦してみてください。

MDDP公式Web



シラパコーン大学について



シラパコーン大学は、タイ国内に5つのキャンパスを擁する国立大学で、13の学部および大学院を有する、同国を代表する総合大学です。1943年、イタリアの彫刻家シン・ピーラー教授らにより、絵画・彫刻学部を設けて創設されました。本学とシラパコーン大学は、1982年の学術協定締結以降、継続的かつ活発な交流を重ねてきました。MDDPの設立は、こうした長年の協力関係と両校の発展を象徴するものです。

専用カリキュラム

MDDPに参加する学生は、本プログラム専用の特別カリキュラムを履修します。1年間のタイへの留学を含め、両大学における専門科目の受講、日本語および英語で研究成果をまとめた文書の執筆、修士作品の提出などを行います。多摩美術大学とシラパコーン大学の正規学生として、双方の教員から研究指導およびサポートを受けることができます。

多文化環境での学び

日本とタイの両国において研究・制作活動を行います。多摩美術大学とシラパコーン大学は、長年にわたり友好関係を築いてきました。歴史ある文化に触れながら、アジアのアートを牽引するタイで学ぶことで国際的な視野と実践的な経験を培い、将来の世界的な活動へとつながる確かな第一歩を踏み出します。

学費サポート

多摩美術大学に対し、2年分の学費を所定の期日までに納入した場合に限り、3年目に相当する0.5年分の学費について本学による全額助成が行われます。これに伴い、シラパコーン大学における学費は全額免除されます。なお、学費の納入方法、助成の適用条件および適用時期については、本学の定めに従うものとします。

応募資格

- 多摩美術大学学士課程（日本画・油画・版画・彫刻）の卒業生
- 大学院修士課程1年生
- 以下の専攻（領域）に所属していること
 - 絵画専攻 日本画研究領域 - 絵画専攻 油画研究領域
 - 絵画専攻 版画研究領域 - 彫刻専攻
- 英語力を証明するスコア（例：IELTS 4.5以上）

スケジュール

	修士1年 4月	修士1年 5月 ~ 10月	修士1年 11月 ~ 修士2年 10月	修士2年 11月 ~ 修士3年 8月	修士3年 9月
多摩美術大学	募集 選考 合否発表	→ 多摩美術大学で就学 (長期休暇含む)		→ 多摩美術大学で就学 (長期休暇含む)	
シラパコーン大学			→ シラパコーン大学で就学 (長期休暇含む)		
					プログラム修了 + 学位授与

※MDDPへの応募を検討されている方は、毎年2月頃にプログラム公式Webサイトに掲載される最新の募集要項をご確認ください。



多摩美TRY

「多摩美TRY」は、これまで海外渡航や海外在住の経験がほとんどない学生を対象とし、初めての国際交流に挑戦しやすい機会を提供することを目的としています。語学力に関する応募条件はなく、「挑戦してみたい」という意欲があれば応募可能です。留学先はメルボルン (Insight English Academy) またはホノルル (ハワイ大学マノア校) のいずれかです。2週間の短期集中語学プログラムを通じて、英語の基礎を学ぶとともに、異文化理解を深める貴重な経験を得ることができます。

また、本プログラムは、将来的に交換留学やダブルディグリーなど、より高度な国際交流プログラムに挑戦するきっかけとしての役割も期待されています。多摩美術大学からの奨学金サポートも用意されており、条件を満たすことで、共通教育科目の単位 (2単位) も付与されます。

これまで海外へ行く機会がなかった方も、このプログラムを通じて、新たな世界に触れ、視野を広げるきっかけをつかんでみませんか？ 多摩美TRYが、あなたの挑戦を応援します。

※多摩美TRYの情報は2026年3月時点の内容です。最新の情報は毎年8月に公開予定の募集要項をご確認ください。

授業タイムテーブル：メルボルン

Insight English Academy

月曜 - 木曜 | 8:30 am - 14:30 pm

TIME \ DAY	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.
8:30 am 10:30 am	・マインドフルネス(瞑想)	・マインドフルネス(瞑想)	・マインドフルネス(瞑想)	・マインドフルネス(瞑想)
	・English Class	・English Class	・English Class	・English Class
10:30 - 10:45 RECHARGE BREAK				
10:45 am 12:45 pm	・English Class	・English Class	・English Class	・English Class
12:45 - 13:30 RECHARGE BREAK				
13:30 pm 14:30 pm	・English Class	・English Class	・English Class	・English Class
	多摩美生専用 オリジナルアクティビティ			

授業タイムテーブル：ホノルル

ハワイ大学マノア校 短期集中語学プログラム

月曜 - 金曜 | 8:30 am - 12:20 pm

TIME \ DAY	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
8:30 am 12:20 pm	・English Class	・English Class	・English Class	・English Class	・English Class
LUNCH BREAK					
	多摩美生専用 オリジナルアクティビティ				

タイムテーブルは変更となる可能性があるため、事前に確認してください。

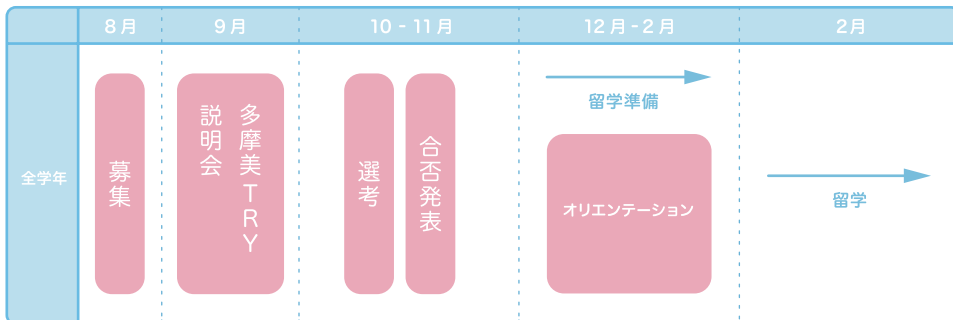
メルボルン：Insight English Academy



メルボルン中心部 (CBD) にある語学学校「Insight English Academy」で、2週間の短期集中語学プログラムに参加します。英語の習得はもちろん、クリエイティブなアクティビティを通じて、総合的なスキルを楽しく伸ばせるのが特徴です。海外での生活には、語学力だけでなく、自信や精神的な強さも必要になります。Insight English Academyでは、プログラム修了後も前向きに、そして積極的に英語圏での生活を楽しくするよう、学生の自信を育む独自のカリキュラムを提供しています。

- 募集人数 ——— 10名
- 選考方法 ——— 書類選考および面接選考
- 留学費用 ——— 45万円程度
- 留学費用サポート — 多摩美術大学より10万円の奨学金が支給されます。
- 現地滞在方法 ——— ホームステイ
- 日本語サポート ——— 有
- その他 ——— プログラムを完遂すると共通教育科目の単位 (2単位) が付与されます (条件あり)。

留学までのスケジュール



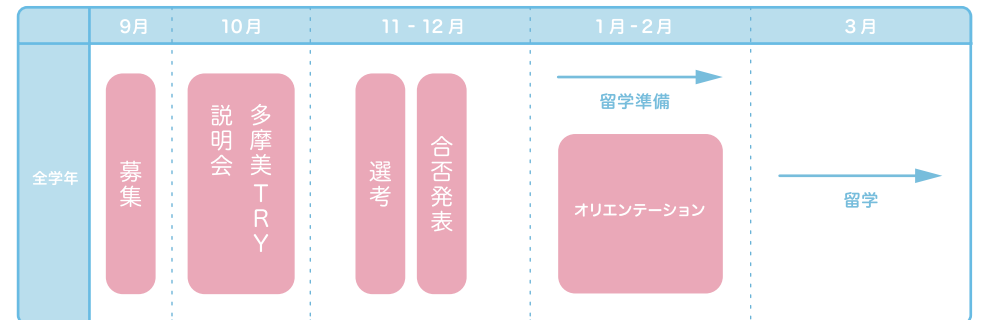
ホノルル：ハワイ大学マノア校 短期集中語学プログラム



アメリカの名門「ハワイ大学マノア校」が提供する語学プログラム「New Intensive Courses in English (NICE Program)」に2週間参加します。また、ハワイの文化を体験できるワークショップなど、ユニークな授業が人気です。週末にはホノルル・フェスティバルに参加し、自分の作品を展示するという貴重な体験も予定されています。今日のグローバル社会で活躍するためには、言語だけでなく文化の理解も欠かせません。このプログラムでは、会話力を中心に、実践的な英語力と異文化理解を楽しく学ぶことができます。

- 募集人数 ——— 10名
- 選考方法 ——— 書類選考および面接選考
- 留学費用 ——— 60万円程度
- 留学費用サポート — 多摩美術大学より10万円の奨学金が支給されます。
- 現地滞在方法 ——— ホームステイ
- 日本語サポート ——— 有
- その他 ——— プログラムを完遂すると共通教育科目の単位 (2単位) が付与されます (条件あり)。

留学までのスケジュール



多摩美TRY 体験記

海外が初めてでも大丈夫?どんな体験が待っている?
多摩美TRYに参加した学生たちのリアルな体験談をのぞいてみましょう。



田續 真央

建築・環境デザイン学科
多摩美 TRY:メルボルン

留学を通して、自主性と積極的に
行動する姿勢が身についた。



語学学校の最終日に撮影した一枚

私は元々海外に強い憧れがあり、将来的には住んでみたいとも思っています。本やテレビを通して海外の教育や文化について知る機会はありましたが、実際に行ってみなければ分からないことも多く、視野を広げなければ柔軟な思考は身につかないと考えていました。その第一歩として、多摩美TRYに応募しました。

実際に訪れたオーストラリアは国際的で、人々がとても寛容で、国全体に受け入れられているように感じました。語学学校では多国籍の学生と交流する機会があり、間違った答えでも「そういう考え方もあるよね」と肯定的に指摘してくれる先生の姿勢に感動しました。日本とは異なる

雰囲気最初は戸惑いましたが、Google マップさえあれば海外でも生活できると実感し、次第に行動範囲も広がっていききました。環境に慣れるにつれ、帰りたくないと思うほど充実した時間になりました。

この留学を通して、自主性と積極的に行動する姿勢が身についたと感じています。今後は、多摩美TRYで学んだ多様な価値観を受け入れる姿勢を、制作やプレゼンテーションに活かしていきたいです。2週間という期間も初めての留学には最適でした。少しでも興味がある人は、ぜひ挑戦してほしいです。

永澤 友恵

版画専攻
多摩美 TRY:メルボルン



留学は、新しいスタート地点を決めるための時間と経験になった。

多摩美TRYへ参加を志したのは、語学力向上はもちろん、異文化理解を深めるためでした。

私にとって留学は、英語そのものへの認識を改める機会になりました。語学学校で実力不足を痛感し自信を失っていた時のことです。ホストファミリーとの会話で「私の話す英語は拙いのに、いつも耳を傾けてくれてありがとう」と伝えたら、「英語は誰にとっても等しく“our language”なんだよ」と返してくれたのが、何よりも心に残っています。言葉に表せないくらい嬉しかった点もそうですが、英語や多文化への理解の浅さを痛感した点で、非常に印象的な出来事でした。

自分の実力を正しく知ると、自分の居場所から目指すゴールまでの距離とゴールに至るまでの障壁が分かります。それさえ分かれば、対策を立てて、明日を生きるための道標を見つけられます。今回の留学は私にとって、新しいスタート地点を決めるための有意義な時間と経験になりました。



ホームステイ先のファミリーが制作してくださったウェルカムボード

舟窪 知菜美

劇場美術デザインコース
多摩美 TRY:メルボルン



言語の壁を超えて、価値観や感情を伝えることの難しさを学んだ。

エンターテインメントに関するデザイン領域を学ぶために、演劇舞踊デザイン学科に進学しました。そんな中で多摩美TRYを知り、留学することが一つの目標であったことに加え、もっと自分の可能性を広げるチャンスだと思い、参加しました。

メルボルンでは、多様な文化の中で、生きた英語や日本とは異なる多くのアート、心優しい人々、豊かな自然に触れ、とても新鮮で刺激的な毎日を過ごすことができました。初めての海外、初めてのホームステイ、様々な経験を通して学んだことは、コミュニケーションの大切さです。語学学校では、異なる国から集まった方々と言語の壁を超えて交流し、価値観や感情をまっすぐに伝えることの難しさと楽しさを実感しました。この大切な学びと経験は生涯忘れられないものとなり、今後の大学での創作活動では、より自由な表現方法を模索していきたいと考えています。また将来は、言語の壁を超えて極上のエンターテインメントを届けられる人になりたいです。

英語と柔軟なアート思考は、これから必ず必要になると感じています。ぜひこのプログラムを通して、普段できないことにも積極的に挑戦し、可能性を広げてください。



最終日、クラスメイトからサプライズプレゼント!!

留学実現のための

5STEP!

留学を実現するためにはどのような準備が必要なのか。
海外大学院留学中の先輩が語る、留学前に取り組んでおくべきステップ。



留学の準備はほとんどの人が初心者。『何もわからない』からスタートするのが普通です。準備は大変ですが、1ステップずつ確実に進んでいきましょう！

三井 悠華

日本画専攻 卒業
大学院進学：国立台湾芸術大学



PORTFOLIO

多摩美アカウントでログインすると
ポートフォリオ全体を閲覧できます。

STEP 1 * テーマを見つける

海外のどこで、何を学びたいのか 自分のイメージを整理する

私の場合、大学1年次から「本場で水墨画の真髄を学びたい」という目的が明確にありました。留学先の国立台湾芸術大学のことは高校時代から知っていて、多摩美術大学に進学した理由もここが交換留学の提携先だったからです。

また、希望の留学先が全くない状態でも、『何を学びたいか』『どの国にいきたいか』『誰に学びたいか』『留学後にどんな自分になっていたか』などのキーワードから少しずつ留学のイメージを固めていくこともできます。

STEP 2 * 情報収集

国際交流課に通って 自分の留学に必要なものを調べる

もともと在学中の交換留学を目指していたこともあり、留学の申請には何が必要なのか知るため、国際交流課で情報収集をしました。ここで成績や語学力に加え、ポートフォリオが必要なことを知りました。

POINT!

国際交流パーティーに行こう！

この時期に、国際交流課が両キャンパスあわせて年に4回主催する『国際交流パーティー』に行ってみましょう！様々な国から多摩美に留学しに来ている交換留学生たちと話すことで留学のイメージが掴めることもあります。そこで友達ができれば、語学面のサポートをし合う関係になるでしょう。

STEP 3 * 語学の習得

留学には一定の語学力が不可欠 必要なスコアを目指して勉強！

海外の大学に留学するためには、留学先に合わせた一定の語学力が必要になります。これがなければ何も始まりません。私は大学3年次までに中国語検定HSK4級を取得し、その後も定期的にHSKを受検しました。英語圏であればTOEFLやIELTSが検定として一般的です。

POINT!

語学学習はできるだけ早くスタートを！

『いつかは留学をしたいな...』と思っているあなた。今日から勉強を始めましょう。語学学習は早く始めるに越したことはありません。スキルは十分なのに、語学能力が足りず留学できない、ということだけはならないように...！まずは単語の勉強から始めましょう！

STEP 4 * ポートフォリオ制作

指定されたフォーマットで在学中の作品を最大限アピール

多くの美術系大学の出願には、規定のポートフォリオ提出が必要になります。私の場合、大学4年次の卒業制作を完成させ発表をした後、2月から一気にポートフォリオを作成し、3月に台湾の大学に国際便で郵送しました。

ポートフォリオはAdobe Illustratorを使って作成しました。作品が際立つように、できるだけシンプルなレイアウトを心がけたことがポイントです。提出先に合わせて、英語や中国語の作品解説も必要になります。



三井さんのポートフォリオ

STEP 5 * 必要書類の提出

出願の大詰め！成績証明書、 研究計画書、語学証明書などの提出

大学の出願にあたっては、ポートフォリオ以外にも成績証明書、大学教員からの推薦書、語学テストのスコア、研究計画書などの提出が必要です。書類審査通過後、面接を受け、合格ならビザ取得という流れになります。



留学実現のための

ただでさえ難しいポートフォリオ制作。それを英語で、となると... (汗)。基本的なポートフォリオのまとめ方、英語ならではの気を付けるポイントなどをみましょう。

ポートフォリオ制作



ポートフォリオ制作では、撮影、全体の構成やレイアウト、製本、英文の校正など考えることが盛りだくさん。ここでは最低限気を付けたいポイントについて紹介します。

倉本 大豪

大学院 グラフィックデザイン領域 修了
大学院進学：オスロ国立芸術大学



PORTFOLIO

多摩美アカウントでログインするとポートフォリオ全体を閲覧できます。

POINT 1

"大学用"のポートフォリオ作りを

みなさんが制作するのは、就活用ポートフォリオではなく、大学に提出する言わば"大学進学用"ポートフォリオです。そのため、『どんな研究をしてきたのか』『これからどんな研究をしていくのか』がとても重要になります。僕の場合は『研究内容ベース』で作品を配置し、目次や見出しを使って、研究内容を簡潔に伝えることを心がけました。

POINT 2

『読まれない』ことを前提に構成する

残念ながらポートフォリオの中の長い文章はほとんど読まれません。溢れんばかりの熱意で長文を書いたとしても、たくさんの受験者のポートフォリオを見ないといけない大学教授たちには読み飛ばされてしまいます。そのため、文章を簡潔にすることはもちろん、『最低限どの文字を読ませたいのか』を考えてレイアウトすることもとても大事です。

POINT 3

作品撮影のクオリティは超重要

『長文は読まれない』という話をしましたが、ではポートフォリオを見る人はどこを一番見ているのでしょうか。そう、『作品写真(画像)』です。バラバラと読み飛ばされても写真だけは確実に目に入ります。言うまでもなく、作品写真のクオリティはポートフォリオの完成度に直結します。作品に立体物がある場合は時間をかけて撮影しましょう。

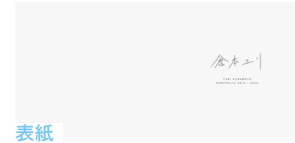
POINT 4

文字情報のサイズ調整は丁寧に

レイアウトでは、文字のサイズとテキストの情報量には注意しましょう。冊子のサイズに対して文字が大きすぎて作品の邪魔をしているポートフォリオや、気持ちが文字に溢れすぎて作品がパッと目に入ってこないポートフォリオをよく見ます。しかし、文字の調整を適切に行うだけで綺麗に見せることができます。ちなみに、英文の扱いは和文より相当楽です。

ポートフォリオ全体の流れ

表紙



作品①-制作背景



研究②



研究目次



作品①-制作背景



作品①-メインページ



研究①



作品②-導入



作品①-詳細



作品①-導入



作品②-メインページ



作品①-制作背景



作品①-メインページ



作品②-詳細



作品②-メインページ



作品①-詳細



作品②-詳細



作品③-メインページ



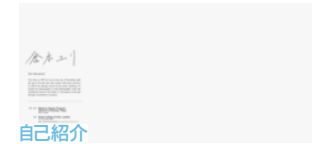
作品①-展開



作品②-制作背景



自己紹介



作品①-展開



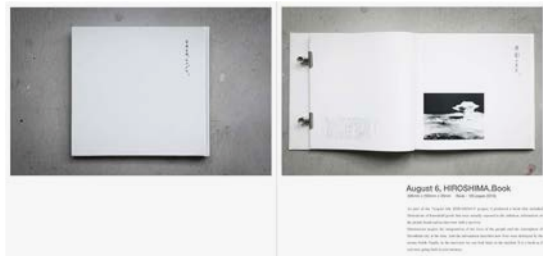
作品②-制作背景





目次や見出しをうまく使う

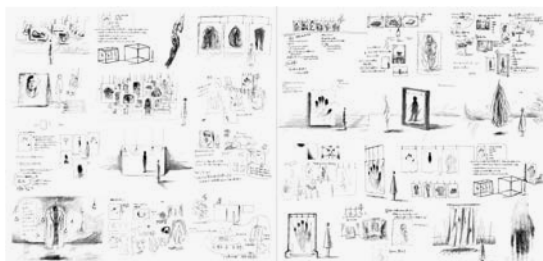
目次や見出しをうまく使うことによって『制作のテーマ』や『どんな流れで研究や制作が進んできたか』を簡潔に伝えることができます。また、目次や見出しは文字情報の中でも目につきやすい部分なので、しっかりと整理して活用するのがベターです。



作品紹介は簡潔に

作品紹介、特に各作品ページの冒頭1ページ目は『とにかくシンプルに、分かりやすく』構成することをオススメします。冒頭のページではメインの写真1~2枚と作品名、そして簡単な説明のみで十分です。他にも伝えたいことがある場合は続く2、3ページ目で伝えていくのが良いでしょう。ここでも、写真の大きさ、文字のサイズや量によって見る人に与える印象は大きく変わってきます。

また、レイアウトフォーマットをあらかじめ決めておき、そこに文字を当てはめていく方法も簡潔なレイアウトのポートフォリオ作りには有効です。



スケッチなどの制作背景も効果的

制作中に描いていたスケッチやメモも掲載しています。作品のコンセプトを文章で見せるだけではなく、制作を進めた際のアイデアスケッチや展示計画のイメージを掲載することで思考力や計画性を見せることができます。



重要度1

重要度2

重要度3

文字情報の整理をする

『文字情報の整理』とは、簡単にいうと『文章の重要度のランク付け』をすることです。

たとえば、左のページでは文字情報を重要度によって3つの大きさに分けています。重要度1の文字は『絶対に伝えたい情報』、重要度3の文章は『最悪読まなくても作品の理解には支障のないもの』です。

ポートフォリオを見る人が、どの情報を読んでいけばスムーズに内容が伝わるのかを常に考えながらレイアウトをしてみましょう。



作品撮影を丁寧に

写真はポートフォリオの命です。写真の完成度が上がるだけで、ポートフォリオの完成度はグッと上がります。逆に作品が良くても写真が悪いと作品自体も悪く見えてしまいます。

撮影は難しいですが、撮影の際はとにかく「作品に無駄な要素を省く」と「綺麗な光を用意する」ことが良い写真を撮るポイントです。作品の大きさを視覚的に伝えるために人や手を写真の中に入れるテクニックも効果的です。

学内写真スタジオも利用可能ですので魅力的な写真撮影に挑みましょう。

*スタジオは予約制です

留学ポートフォリオ講座を活用しよう

国際交流課では、僕が講師として担当している「留学ポートフォリオ講座」を年2回開催しています。留学用と就職活動用のポートフォリオでは求められる内容が異なるため、本講座では留学に特化した内容のポイントを学ぶことができます。本講座では、具体的な構成例やポートフォ

リオ制作の心得についてのレクチャーのほか、参加者のポートフォリオ添削や、実際に一から組み立てる作業を行っています。参加無料で、ポートフォリオ制作経験の有無は問いません。詳細は、国際交流課のWEBページでご確認ください。

留学実現のための

語学力UP!
in 多摩美

留学の必須項目であり最大の壁「語学力」。身近で学べるところはないのだろうか...
... あります、多摩美に！英語の授業と語学検定を中心に紹介します。

目的に応じた多摩美の語学カリキュラム

八王子キャンパス開講

Portfolio Writing

アートやデザインを学ぶ学生にとって、英語力は活躍の場を広げる武器。リベラルアーツセンターには目的別の幅広い英語の授業が揃っているので、将来のビジョンに合わせて履修が組めます。たとえば『Portfolio Writing』では、ポートフォリオで使える単語や文章の型を学び、実際にポートフォリオを作成。海外に向けて発表できるレベルまで、“使える”英語力を練り上げます。



荒木慎也先生によるPortfolio Writingの授業

八王子キャンパス開講

English in Art & Design I

『English in Art & Design』はその名の通り、美術・デザインで使われる英語を学ぶ授業です。前期は作品描写や分析、後期は美術・デザインに関連する様々なテーマについて議論することを英語で挑戦します。しかし、専門的な語彙よりも日常でも使える英語表現に重きを置き、そして課題や演習で提示されたお題を基に、履修生は自主的に英語を学んでいます。英語を介して様々な学科の学生がそれぞれの知・美的好奇心を共有できる稀な場です。



常石憲彦先生によるEnglish in Art & Design Iの授業

上野毛キャンパス開講

English in Performing Arts

英語劇づくりを通して、「夢中になって自分が感じたまま英語を話す」ことを目指します。授業は英語で進み、役やセリフについて話したり、実際に演じたりする中で、自然と英語に慣れていきます。劇の発表の機会や、日本の伝統芸能を英語で紹介する活動もあり、学年や学科を越えた仲間と出会いながら、「生きた英語」を体験できます。



阪本由貴先生によるEnglish in Performing Artsの授業

語学能力試験

語学能力検定試験の一例です。
希望する留学先の語学能力条件を確認して、計画的に準備をしましょう。

IELTS

International English Language Testing System (IELTS : アイエルツ) は、海外留学や研修のために英語力を証明する必要がある方、およびイギリス、オーストラリア、カナダなどへの海外移住申請に最適なテストです。

イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほぼ全ての高等教育機関で認められており、アメリカでも TOEFL に代わる試験として入学審査の際に採用する教育機関が3,000を超え、英語力証明のグローバルスタンダードテストとして世界中で受験者が増え続けています。

TOEFL®

TOEFL®テスト (Test of English as a Foreign Language) は、大学のキャンパスや教室といった実生活でのコミュニケーションに必要な「読む」「聞く」「話す」「書く」の4つの技能を総合的に測定します。

TOEFLテストは世界中の英語検定テストの中で、幅広い国々で受け入れられているテストです。アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、カナダのほぼ全ての大学をはじめとした、150か国、10,000以上の機関がTOEFLテストスコアを英語能力の証明、入学、奨学金、卒業の基準として利用しています。日本では教育機関等での学内単位認定や、入試優遇、海外派遣選考の目安として利用されています。

TOEIC

一般的にTOEICと言われているテストは、TOEIC Listening & Reading Testを指します。このテストでは、ビジネスや日常生活における英語のコミュニケーション能力を測ります。基本的に、海外大学の受験をする際にTOEICのスコアを利用することはできないので、注意が必要です。しかし、日本国内における就職活動をする際には、今でも多くの学生たちに利用されています。また、多摩美術大学の国際交流プログラムの学内選考では、TOEICスコアを受け付けています。

TOEFL iBTおよび IELTS Academic 受験料の補助

- 国際交流課では、留学希望者のニーズに応えるため、2022年度よりTOEFL iBTまたはIELTS Academicを受験する学生に対し、受験料10,000円を補助しています。 年度内に1人1回限り、先着15名の予定です。
※詳細は、大学ホームページをご確認ください。
- また、検定試験の公式問題集や語学学習に関連した本の貸し出しを行なっています。こちらもぜひ活用してください。

留学実現のための

実践力UP!

ここでご紹介する3つの研修は、海外を目指す学生はもちろん、国内での活躍を視野に入れている学生にとっても将来にわたって欠かせない貴重なスキルを習得できる機会です。学生のうちから実践的な力を身につけることで、自信を持って未来へ踏み出しましょう!

実践的英語力を伸ばすスキルアップ研修



研修の様子

プレゼンテーション研修 開催時期：8月上旬・1月下旬

ネイティブの講師による3日間の短期集中研修で、効果的な発表スライドの作り方や、日本と西洋のプレゼンスタイルの違いを学びながら、聴衆を惹きつけるスキルを身につけます。研修終了後には、一人ひとりに講師からの詳細なフィードバックレポートが提供されます。授業とはひと味違い、デザインやファインの枠を超えて受講者同士が交流できる、刺激的で楽しい機会です。自らの考えを発信する力を、この研修で磨きましょう。

ディスカッション研修 開催時期：8月上旬・2月下旬

3日間の研修では、ディスカッションスキルを習得するだけでなく、コミュニケーションの根幹となる異文化理解についてのレクチャーも含まれています。大学の講義中の議論、展覧会での会話、ホームパーティーでの交流など、さまざまなシチュエーションで役立つコミュニケーション方法を学びながら、より自然に、自信を持って会話を楽しめる力を養いましょう。

ライティング研修 開催時期：8月上旬・3月下旬

1日集中研修で、アカデミックライティングの基本ルールを身につけましょう。授業レポートなど、学術的文章の書き方を学びます。講義は1日のみですが、課題として執筆した文章に対し、講師からの丁寧な添削フィードバック+マンツーマン指導を1回受けることができます（オプション料金が発生します）。効果的な表現や論理的な構成を磨き、より質の高い文章を目指しましょう。

※各研修の内容・スケジュールは変更となる可能性があります。 ※参加費が発生します。

プレゼンテーション研修

体験記

山田 佳奈

大学院 絵画専攻 日本画
プレゼンテーション研修



緊張した時間だった分、自身の英語力の向上を実感できた。

前々から交換留学に行きたかったため、英語力向上を目指して参加しました。研修では、主に自分の制作について人前で紹介する練習を繰り返していました。そしてこの経験が最も役に立ったと感じたのは、交換留学の学内選考です。英語で面接があったので、そもそも面接自体の経験が少ない私は不安でいっぱいでした。ですが、人前で英語を話す経験、そして作品について英語でアウトプットするという経験があったため、乗り越えることができたと感じています。人前で、しかも英語で、自身の制作について発表する機会はとても貴重でした。緊張の続く時間でしたが、その分英語力が伸びたことを実感しています。交換留学に関わらず、留学を目指す方は英語で作品について発表する機会があるはずなので、そういった方にお勧めしたいです。今後、私はディスカッション講座にも参加する予定です。そして、自身の作品以外にも、芸術や社会問題について自身の考えを英語で述べられるレベルにまで英語スキルを高めたいです。この先、留学先で様々な背景を持った人々と意見交換し、多様な考えと出会うことが私の夢です。

利谷 成美

油画専攻
プレゼンテーション研修



この経験は、今後のアーティスト活動にも役立つと感じた。

私がプレゼンテーション研修に参加した理由は、英語力の向上と世界で通用する発表技術を習得したかったからです。相手に伝える力は、将来にわたって重要なスキルだと考えています。特に、英語圏のプレゼンテーション手法を学び、実践する経験は、今後のアーティスト活動にも大いに役立つと感じました。

研修で最も印象に残ったのは、他の参加者のプレゼンテーションです。わずか3日間で、発表内容や表現力が大きく向上していく様子を目の当たりにしました。私自身の成長も実感でき、聴衆との自然なやり取りが生まれる瞬間は大きな刺激になりました。この研修を2回受講して感じたのは、スキル向上には「経験」が不可欠だということです。1回目と2回目を比べると、スクリプトの組み立て方や緊張の度合いに変化がありました。全く経験がない方でも、回数を重ねることで確実に上達できると確信しています。

英語圏のプレゼンテーションを集中的に学べる機会は多くありません。興味があっても、人前で話すことに不安を感じ、参加をためらう方もいるかもしれません。しかし、この研修は非常に貴重な経験になります。少しでも関心がある方は、ぜひ挑戦してみてください。

様々な留学①

私費留学 体験記

大学のサポートがある交換留学などとは違い、全て自分の判断で決める必要がある「私費留学」。それだけ自由度も高いということだけど…。実際はどのような留学生活なのでしょう。



加藤 理子

芸術学科 卒業
私費留学：プラット・インスティテュート

エディターになる夢を実現させるため
ニューヨークでしかできない体験をする。

自分に足りないものは何かと考え
プログラムを選びました

ニューヨークのプラット・インスティテュートという芸術系大学に留学しました。私の場合は、大学3年次終了後、1年間休学をして、私費留学をする道を選びました。受講したのは、「ファッション・ニューメディア」というサーティフィケート・プログラムです。これは、ファッションブランドやクリエイティブな組織をどのようにブランディングし、アウトプットしていくか…などをテーマに、幅広い科目を履修できる課程で、修了すると認定証がもらえます。

幼い頃からファッション好きだった私は、学業の傍ら、デザインした服の販売や雑誌編集部でアシスタントなど、多様な活動に取り組んできました。その中で、「つくる側ではなく、その魅力を発信する立場になりたい」という

志を持ったのが留学に行くきっかけでした。そして、この夢を実現するために自分に足りないものは何かと考え、今回のプログラムを選びました。履修する科目群は、まさに将来に直結するものばかりでした。授業では、Adobe系のグラフィックソフトを使った雑誌づくり、撮影テクニック、ブランドコンテンツづくりなどのほか、デジタルマーケティングやコンシューマーリサーチ（消費者調査）なども学ぶことができます。デザインやファッションだけでなく、ビジネス寄りの科目が多いのがこのプログラムの魅力だと思います。受講生は留学生も多く、カナダ、フランス、イタリア、コロンビア、タイ、中国、韓国など世界中からやってきた学生と交流ができます。ファーストキャリアを積んだ後、転職やキャリアアップのために通っている社会人や学生も多く、その意識の高さからも刺激を受ける日々でした。

私にとって、ニューヨークという街は、高校時代から特別な場所でした。高校2年次に家族とニューヨークを訪れた際、メトロポリタン美術館で、「CAMP」というファッション系の企画展を見て、衝撃を受けたのです。そのスケールや世界観は、日本では味わったことのないものでした。「ここに行けば心を動かされる瞬間がある、ニューヨークに行けば夢や目標に近づける」心のどこかでそんな思いを持つようになっていました。留学でニューヨークに来てすぐの2022年2月に、ブルックリン美術館でクリスチャン・ディオールの展示を見て、「やっぱりこれだ!」と確信しました。この心を動かされる体験は、ニューヨークでしか味わえないものだと思います。



クリスチャン・ディオールの展示

なぜその国を選ぶのか
どんな人にとって、何をしたいのか

ニューヨーク留学中にこうした世界観をよりダイレクトに感じるために「ニューヨークファッションウィーク2022」のアジアファッションコレクションのお手伝いも経験しました。PRのボランティアスタッフとして、バックヤードに入り、コロナ禍で来場できなくなったデザイナーさんの代わりにフィッティングなどを行いました。キラキラしたファッション業界の裏側で、地道な仕事を学びながら、ショーに関わる多くの人のパッションに触れられたのは貴重な経験になりました。

語学に関しては、留学に行くまで長い期間があったため、いわゆる英語塾に入り「英語に触れる環境づくり」からスタートしました。しかし、ある程度の語学力は必要ですが、それを得た後は「どのような留学にしたいか」を考えることが重要であると個人的に思います。もちろん学業も大事ですが、留学先で会う人、異なる文化や価値観にたくさん触れることは間違いなく自分を成長させます。なぜその国なのか、どんな人にとって何をしたいかじっくり考えてみてください。実際、私は、現地のファッションショーでのアシスタントや渡米前から関心があった会社でのインターンなど、最高の経験をしました。今は、NYで出会った人々に再会できるよう、留学で吸収したスキルのブラッシュアップに努めています。



ニューヨークファッションウィークでアシスタントを務めた際の1枚



ニューヨーク、ヤンキースタジアムにて

様々な留学②

海外大学院 体験記

多摩美の学部を卒業した後も、留学の選択肢はたくさんあります。そのひとつが「海外大学院」。さらに高いレベルの制作や研究を海外で行うことには様々なメリットがあります。



南雲 未希

大学院 絵画専攻 日本画 修士
大学院進学：国立台北芸術大学

日本との共通点と違いがある台湾で、
新たな発見を自分に取り入れる。



アトリエにて

日本と同じ画材でも、その使い方や
構図は独特で新鮮に映った。

私が台北藝大への進学を志したのは、多摩美在学時にこの大学への交換留学の機会を得て、台湾そして学校の雰囲気自分に合っていると感じ、自身の制作をより良く発展させられると思ったからです。同じアジア圏にあり日本の近くに位置する台湾では、日本のお店や商品、文化が日常的に見受けられ日本人にとって馴染みやすい環境です。ですが生活をしていると、やはり至る所でさまざまな違いを体験します。それは絵画、芸術においても同じで、たとえば使用画材（特に紙に墨、岩絵具で描く日本画の技法）など共通していますが、その使い方や構図は独特で新鮮に映ります。日本との共通点と違いが入り混ざる台湾で、水墨画また絵画を学ぶことは、これまで

日本画を学んできた私が築いてきたものを活かしつつ新しい発見を取り入れていくのに最適な場所と言えました。

台北藝大はかなり自由度の高い大学です。各専攻の必修科目はありますが、それをどの学期に履修するのは学生自身で決められます。自由度が高い分、自分でしっかりと計画を立て実行することが不可欠です。特に修士の修了要件は必須科目の履修はもちろん、論文作品提出の他に口頭試験や個展の開催も含まれ、日本の美術大学より要求されるものが多く、各提出書類などの期日、ルールもかなり細かく設定されています。修了要件の多さから3、4年と長く大学院に在籍する学生が一般的で、私も少なくとも3年在籍することになりそうです。研究室の方が個人的に注意喚起してくれることはほぼないので、情報を逃してどんどん修了が遅くなってしまわないように日々確認しています。

海外への留学を通して、
自国への理解も同時に深まった。

授業は10人程度の少人数制で先生との距離が非常に近いです。世間話も多くリラックスした雰囲気です。日本の美術大学との違いは校外へ展示を観に行く機会が多いことも挙げられますが、最も異なる点は作品に対しての自分の意見、考えを発表する機会が非常に多いことです。どの授業でも同級生や作家の作品に対しての自分の考えを求められます。特に留学生だとその国の絵画史、作家、画材について先生から頻りに質問されるため、自国への理解を日頃から深める必要があります。私は一学期に美術系の授業（実技、理論を合わせて）を5コマ、中国語の授業を2コマ履修していて、課題は驚くほどの量ではないですが、やはり理論系の授業での発表の準備には下調べを含めかなり時間を要し、制作が捗らない時期が2ヶ月程続きました。多摩美在籍時と比べ、制作よりも文献や論文をもとに絵画を主体的に学ぶ時間が圧倒的に増えました。絵画理論も学びつつ、制作の時間をしっかり確保するのが今後の私の目標です。

台北藝大の学生は話しやすく親切な学生がとても多く、また制作・研究熱心で大変刺激になっています。アトリエは24時間使用でき、授業が終わった後は多くの学生が夜遅くまで制作に取り組んでいます。制作だけではなく、発表の準備をしていたり、作品について学生が話していたりする様子が見られます。アトリエにいと、よく同じアトリエの学生が「一緒に夜食頼む?」「飲み物頼む?」と聞いてくれ、私はその誘いかなり高い頻度で乗り、台湾人の好みの味や美味しいお店を聞き出しています。

語学学習は十分なものだったとは正直言いにくいのですが、まず大学院受験、そして台湾奨学金への応募をするために必要だったTOCFLという中国語能力証明テストの初級、中級の勉強を主にしていました。このTOCFLはウェブ上に過去問が掲載されていて、それを利用して試験対策兼ねた語学学習をしていました。他には台湾のドラマ、映画、youtubeの台湾人のチャンネルを見たりと中国語に楽しく触れる機会を意識的に作っていました。また多摩美には台湾人や中国人の学生も多く

在籍しているため、勉強した中国語が実際に通用するかを試すことができ、継続が大事な語学学習でのモチベーションとなっていました。

「留学してみたい」という気持ちを
言葉に、そして行動に。

最後に、留学は自分の思い通りに行かず不安や焦りも人一倍経験するかと思います。そんな時は一人で考え込まずに、国際交流の職員さんや大学の先生、友人などにたくさん話をしてみてください。意外な角度からヒントや希望が得られたり、気が楽になったりします（笑）。実際、現在受給している台湾奨学金への応募に当時実力不足かもと思い諦めていたのですが、国際交流の職員さんに相談したところ強く鼓舞してくださり、おかげで決意が付き挑戦することができました。この過去の私の頑張りが現在の私を経済的に助けてくれているのはもちろん、目標を達成できたことへの自信に大きくつながっています。受験から留学にこぎつけた現在、感じていることは、思い切って行動に移してみるとその過程では困難があっても最終的には案外何事もうまくいくということです。留学してみたい、そう思う気持ちを言葉に、行動にして、是非挑戦してみてください。



同級生の展示にて

様々な留学 ③

アーティストインレジデンス 体験記

大学卒業後の進路には、「作家として」海外に滞在する方法もあります。それがアーティスト・イン・レジデンス。聞き馴染みのない人も多はず。レジデンス経験者であるムーニー准教授にお話を聞きました。



ムーニー・スザンヌ

大学院美術研究科 准教授
アーティストインレジデンス

日常生活から離れ、創作活動に専念できる環境に身を置く特別な時間。



アーティスト・イン・レジデンス(AIR)とは？

アーティスト・イン・レジデンスとは、アーティストを国内外から一定期間招聘し、生活や制作活動を支援するプログラムです。滞在中のアーティストへの支援は多岐にわたり、スタジオの提供、展示会やイベントの実施等が含まれることもあれば、研究や地域コミュニティとの交流に焦点が当てられることもあります。アーティストの日常生活が妨げられることなく、制作活動に集中することを可能にします。AIRプログラムの受入機関は、文化施設、大学、ギャラリー、コミュニティスペース、さらには個人宅など、様々です。成功したアーティストではなくても、応募することが可能です。

私は、2000年代初頭に修士課程を修了した後、アイスランド、スペイン、韓国、アイスランド、日本でいくつかのレジデンスに参加しました。いずれもユニークで充実した経験でした。レジデンスの期間は、住居型プログラムで2週間から4か月、非住居型なスタジオ・レジデンスは6年にわたるものまで様々でした。

AIRの探し方

AIRプログラムを知る方法はいくつかあります。恐らく最も簡単な方法は、オンライン・データベースや公募告知を通じて情報を得ることです。TransArtistsは、世界中の1,500以上のAIRプログラムを網羅した包括的なデータベースを提供しています。Res Artisは、検証済みのAIRプログラムからなるネットワークです。また、地域ごとにAIR_J(日本)、Berlin Art Link(ドイツ)のようなリソースも存在します。すべてのAIRプログラムが公募方式ではなく、中には管理者やキュレーターによってキュレーションされているものもありますが、これはデータベース上で明記されています。

オンラインリソースに加え、ロコはとても大切で、他の人がこれらのプログラムでどんな経験をしたかを知る素晴らしい手段です。日本でアートコミュニティやネットワークを構築する過程で、日本のギャラリーやスタジオとの提携や交換プログラムを通じて、海外のレジデンスに参加する機会が見つかるかもしれません。

選び抜く

AIRプログラムはさまざまな種類があります。最初の課題は、自分に合ったAIRを見つけることです。応募する前に、どんなサポートを受けることができるのかを確認することが重要です。一部のプログラムは宿泊施設のみを提供し、スタジオは提供しない場合もあります。逆も然りです。費用が発生するプログラムもあれば、アーティストに報酬を支払うプログラムもあります。追加サポートには(ない事もありますが)、航空券、食事、材料費、展示スペース、展示サポート、企画された文化活動、ネットワークサポート、技術サポート、翻訳サポート、カタログ出版などが含まれる場合もあります。一方、滞在中にアーティストに期待されることもあります。たとえば、講演、無報酬のワークショップ、地域活動への参加、公共アウトリーチプログラムへの参加、報告書の作成、オープンスタジオ訪問の可否、作品寄贈の要請、費用の支払いなどです。

十分な準備を

AIRプログラムの魅力の一つは、未知の領域に飛び込むことです。ただし、限られた時間の中で、機会を最大限に活かしたいのであれば、事前の準備が役立ちます。

一般的に、国際的なAIRプログラムでは、アーティスト間の共通言語は英語です。留学とは異なり、英語で授業やレポート提出の必要はありません。日常会話に慣れていて、自分の作品について英語で話せるならば十分です。ただし、一部のAIRプログラムでは講演やプレゼンテーションが必要なものもあります。また、実践活動として研究や地域コミュニティとの交流が必要な場合もあるため、滞在中に、あなたが求められている活動が出来るのかを自分で判断する必要があります。その他、特に数ヶ月以上滞在中の場合は、ビザの必要要件の確認や、保険加入などの実用的な準備も必要です。

メリット

① 時間とスペース

大学での時間は特別なものです。まだ気づいていないかもしれませんが、時間が経つにつれて責任や気が散ること、様々な制約が増えていきます。AIRプログラムは、日常生活の忙しさから離れ、アート制作に専念できる時間と場所を確保することができます。

② コミュニティとプロフェッショナルネットワーク

AIRプログラムは多くのアーティストが参加することで、強いコミュニティを構築することが出来ます。さらに、異なる国や背景を持つアーティストやアートの専門家と出会うことが可能です。将来のために自分自身のグローバルネットワークを築ける可能性があります。

③ 文化交流

AIRプログラムは異文化に浸る素晴らしい方法です。また滞在中は、あなたは自国の大使になりえます。滞在中について多くを経験し学ぶことに加え、国際的なAIRプログラムは文化のつぼです。レジデント仲間から多くを学び、情報交換ができるでしょう。

④ クリエイティブなアウトプット

提供されるサポートによっては、通常では不可能な作品の創作を容易にします。たとえば、サイトスペシフィックな作品、専門の展示施設、大規模なインスタレーションのための資金を提供することもあります。

学生に対するアドバイス

AIRプログラムに応募を考えている学生に向けてのアドバイスは、今利用可能なリソースを最大限に活用することです。必要であれば追加で語学クラスを受講することや、本学で行われている国際的なプロジェクトへの参加、また海外から訪れる学生や教員との交流を大切にしましょう。その際の会話が将来どのように繋がるかは分からないものです。

様々な留学 4

ワーキングホリデー 体験記

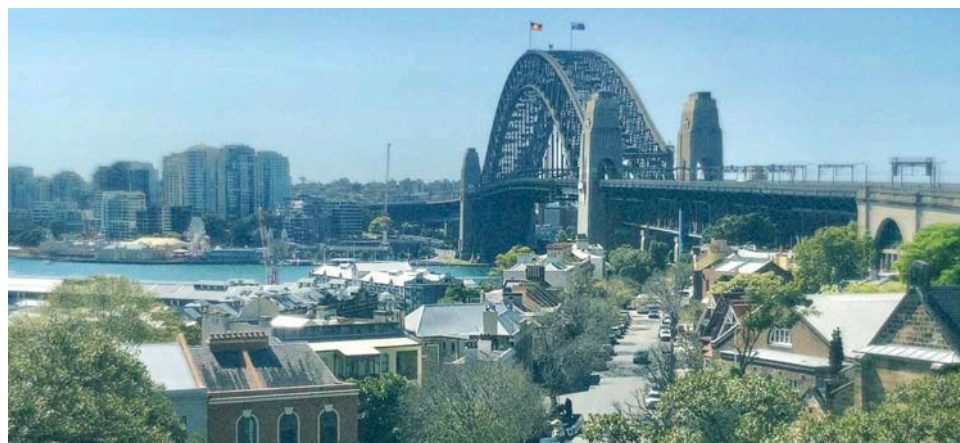
多くの人が「聞いたことはあるけど一体なんなんだ?」と頭にハテナが浮かぶと思います。現在ワーホリでオーストラリアに滞在中の佐々木さんに、その魅力をわかりやすく教えていただきました。



佐々木 太一

工芸学科 卒業
ワーキングホリデー：オーストラリア

『働きながら海外を楽しめるワーホリ』
の魅力に惹かれ、オーストラリアへ。



シドニーハーバーブリッジ

ワーキングホリデーの実現にも
人それぞれの方法がある

2023年7月からオーストラリアにワーキングホリデーで来ています。多摩美術大学在学中には、国際交流プログラム "Pacific Rim" を通じてアメリカに留学したり、国際交流センターの主催するイベントに足を運んだりと海外にとにかく興味がある学生でした。大学3年生の終わり頃、卒業後の進路を考えていたときに、特にこれと言ってやりたいことがなく、悶々とする日々を送っていました。そんな時、「海外で働きながら様々な経験を積める制度」のようなものがあつたことを思い出し、調べていくうちにそれがワーキングホリデーだと気がきました。コロナ渦で長く海外に行けていなかったため、「行ってみたい」という気持ちが強まりました。ありがたいことに両親には反対されることもなく、やりたいことをや

ってきなさいと言ってくれたので早々に就活はやめて卒業制作にはげみました。その頃はまだどの国に行きたいか決まっていなかったのですが、英語の勉強のために使っていた Hello Talk というアプリで、同い年のオーストラリア人に出会ったことがきっかけとなり、オーストラリア渡航を決意しました。誰も知らないところでゼロから生活を始めるより、友人がいる場所なら生活の基盤が築きやすいと考えました。入国してから早5ヶ月が過ぎ、私は現在ハミルトン島という離島のレストランでキッチンスタッフとして働いています。最初の2ヶ月は友人のいるシドニーで生活をし、様々な観光スポットを案内してもらったり、毎週末に各地で開かれているマーケットに足を運んでみたり、Language Exchange Meet Up に参加してみたりと、充実した日々を送っていました。その後、貯金が減り始めたため、エージェントを通して仕事をゲットし、ハミルトン島に引っ越しました。



ハミルトン島の景色

私は大学を卒業後に就職をせず、新卒卒を捨ててオーストラリアに来ており、数年はこちらにいる予定です。日本に完全帰国する頃には新卒卒から外れてしまっていて、日本での就職がどうなるか全く想像もつきません。もし、「日本での社会経験なしに海外に行くのは不安。大学が忙しくて貯金もない……でもいつか行ってみたい」と感じている人は、一度日本で就職してしっかりお金を貯めて、準備万端の状態に挑戦することが良いと思います。

英語力に関しては、ある程度日常会話に困らないまでの力を身につけてからワーキングホリデーに挑戦する方が望ましいですが、オーストラリアに着いてから語学学校

に行く人もたくさんいます。私の友人は、3ヶ月間セブの語学学校に行き、その後オーストラリアに入国していました。学費の安い語学学校を経由してワーキングホリデーに行くのもひとつの手です。ちなみに、ワーキングホリデーには年齢制限があるので注意が必要です。少しでも興味がある人は早めに行動をすることをオススメします。みなさんが充実したワーホリ生活を送れることを祈っています! (2024年3月時点の寄稿)

オーストラリアでのワーキングホリデーについて

●ワーキングホリデービザについて

ファームジョブやホスピタリティ(カフェレストラン)など、政府が指定する地域で働くことで2nd/3rd ワーキングホリデービザの取得可能。2nd/3rd ワーキングホリデービザにより、1~2年間の滞在延長が可能。最大3年間のオーストラリア滞在が実現。

●労働条件

就労時間の制限はなく、時給は世界でもトップクラス。最低時給は\$24.95ドル(2025年時点)で、約2,700円程度。土日や祝日は時給が1.25倍から最大2倍に増加。

●経済的なメリット

ワーホリ準備等で使ったお金を働いて取り戻すことが可能。給料日が毎週(月4回)あるため、安定した収入が期待できる。

●生活費と物価

家賃(週払い)や外食費は日本より高いが、シェアハウスやアジア系のスーパーを利用することでコストを抑えることができる。自炊をすることで生活費を節約し、滞在中に様々な経験を積む余裕がある。

あの頃をふりかえって...

大学での国際交流経験と社会人生活



都築 明日香

油画専攻 卒業
交換留学：中央美術学院世界を多角的に見つめる視点を持つ
ことがこれからの時代に必要になる。

今の仕事内容

現在、私は医療系の国立機関の事務として、国際的な研究の推進を目指す業務に携わっています。私が担当する業務は、主にHPの改修やSNS運用、セミナーの実施などの広報業務、海外機関から研修生を受け入れる教育プログラムのアレンジ、そのほか自施設からの海外訪問にかかる旅費の精算や予算管理などで、幅広く様々なことに挑戦できる環境にあります。現在は研究に特化した部署にいますが、当初は組織間の結びつきや協力を促す、国際交流を主たる業務とする部署で非常勤職員として働いていました。絵を描くことしかやってこなかった私に、当時の上司にあたる方が、一から仕事の基礎や英語の語学指導をしてくださり、現在の部署にご縁があって常勤職員として働くことができています。行政に関わるお仕事なので社会貢献の意味合いが強く、職場や業務にも国際色溢れる環境となっています。

美術との向き合い方

美術はやめたの?と思う方もいるかもしれませんが、美術はやめようと思ってやめられるものではないです。日々の暮らしの中に大学時代の学びはずっと根付くものですし、業務にも生かすことができます。私自身も時間がある時は絵を描く日もあります。大学時代の友人と継続した交友が続くのもとても大切です。私の周りにはみんな仕事をしていて作家をしている人はほとんどいませんが、集まると大学にいた時と同じ空気が流れて、友人でありながらも切磋琢磨してきた余韻はずっと消えないです。また、私は通信制の大学に入り直して、仕事をしながら文化

財保存に関わる学びを継続しており、美術が新たな興味へ導いてくれることもあります。

多摩美時代に国際交流を頑張った理由

別の大学にも通ってみたい!と素直に思ったことが一番大きな理由だったと思います。別の大学の学生は何を考えているのだろう、教授はどんな意見を言うのだろうと考える日が多くなり、環境を変える手段として交換留学を選びました。当時は今の環境でしか得られないもの、留学でしか得られないものがあるので、どちらが最適なのか悩んだこともありましたが、それを一押ししたのは中国に単身赴任をしていた父の存在です。人生を通して父が不在の中で生活をする時間が多かったことから、もっと話をしたいと感じていました。当時、多摩美術大学には中国の協定校がありましたが交換留学の実績はなく、国際交流課の協力のもと、留学のために中国語の勉強と語学資格の取得を行い、大学担当者と連絡を取り合うことで交換留学を実現することができました。留学中はあまりスポットの当たらない中国の現代美術の最先端に触れることができ、中国国内美術大学の最高峰で美術に打ち込む仲間に出会うことができました。父とは月に一度会う時間で一緒に美味しいご飯を食べながらたくさん話をすることができて、作品にも良い影響を与えてくれたと感じています。

国際交流経験が社会人になってから
どのように役に立っているか

まず、調整能力です。留学は書類作成、日程調整、メー

ル、様々な手配の嵐です。これらは社会人が仕事を行う上での基本的な能力になります。当時は必死だったので全く意識していませんでしたが、意識しながら行うときと将来の進路に役に立ちます。和文と英文ではフォーマットの作り方やメールの作法が異なるので、作成が必要な際はぜひ調べながら作成してみてください。次に、臨機応変な対応力です。留学中は突発的に色々なことが起こります。私も実際に、留学中に突然家に警察が来たり、家の中に鍵を置いたままオートロックの家の扉を開けてしまい鍵屋を手配するなど、びっくりするような事態や失敗に陥ることがありました。そのような場面でも即座に様々な解決策とリスクについて考え、行動する力は生きていく上で重要な力です。また、語学力はあるに越したことはないです。仕事の幅も人生の幅も広がります。様々な国の人と意見を交わし、世界を多角的に見つめる視点を持つことは、これからの時代を生き抜く上で必要な能力だと思います。

今後の自分のキャリアについて

私はまだまだ社会人経験が浅く、毎日の業務に必死に向き合うことばかりですが、今後は指導できる立場になれるように、組織の仕組みや医療に関する知識を深

めていきたいと感じています。職場環境の特性上、非常勤職員の方に支えられている部分が大きく、働いている方の業務負担の軽減や業務の簡易化を積極的に進めたいです。また、英語を使う機会が多い職場なので、語学面でも様々な業務を任せただけの場面が増えるように頑張りたいです。

多摩美生に対する

国際交流に関するアドバイスや応援

国際交流に踏み切れない大きな理由はやはり言語の壁だと思います。読めない、不安を感じる、最初のひと言葉が分からないなど、色んな悩みがあると思いますが、一步を踏み込むとあつという間に40点が50点になり、60点になるとある程度の日常会話ができます。この海外の大学に絶対に行きたい!ここだけは絶対に失敗できない!という気持ちで、テキストだけでなく勉強したい言語の映画やバラエティなど色々なメディアに触れてみてください。言語が分かると本当に楽しいです。その楽しさで一気になれるようになります。言語は英語である必要はないです。一番興味のある言語で始めることが大切です。第二言語を習得すると第三言語、第四言語は感覚を掴んでいるので習得のハードルが下がります。応援しています!



北京留学中・大学のエントランス前にて

2024年・イギリス 大英博物館にて

国際交流課

名前は聞くけど、実際どんな場所か知っている人は意外と少ない国際交流課。
ここでできるのは留学相談だけではなく、どんなことができるのか、紹介していきます。



国際交流課はこんなところ！

国際交流課では「なんとなく留学に興味がある」という学生に対し、なぜ海外で学びたいと思うのか、志望理由から一緒に考えます。また、留学用ビザの取得や在留カードの更新といった事務的な相談に加え、留学関連の奨学金の紹介、語学学習の支援などを学生目線でサポート。また、ときには留学や語学に限らず学生生活の相談にのることもあります。

誰でもウェルカム！
スマホの充電だけでもOKです！

摩庭 啓人
国際交流課



留学カウンセリング

国際交流課では留学希望者に対して個別のカウンセリングを実施し、各学生の目的、予算、キャリアプランなどに合わせた提案やアドバイスを行っています。「留学ってなんだかカッコイイ」「将来的には海外で暮らしてみたい」となんとなく考えている人も、国際交流センター職員と話すことで、漠然としたものがカタチになっていくはずです。対面のカウンセリングだけでなく、電話、メール、Zoomでも対応可能です。



最新留学情報をチェック！！

入口すぐの掲示では語学検定の検定料補助制度、学内外の国際交流イベント、留学説明会などの情報を掲載。受付横の棚には語学学習用の教材や『TIMES』などの英語雑誌が並び、貸出しを行っています。さらに学内の留学経験者による留学体験記とポートフォリオは誰でも閲覧可能で、ここでは紹介しきれない、よりリアルな情報に触れることができます。資料は上野毛のリベラルアーツセンターでも貸し出しています。

多摩美生のサードプレイスに



国際交流課では、留学・語学関係の相談に対して手厚くサポートしていて、学生一人ひとりの性質や考え方、語学レベルに合わせた丁寧な対応を心がけています。一方で、留学や語学学習に興味のない学生もふらっと立ち寄り、授業や学生生活のことを気軽に話せるような場所にしたいとも思っています。目指すのは、家でも教室でもない「多摩美生のサードプレイス」。オープンな空気でお迎えしていますので、ぜひ、一度のぞいてみてください。英語力ゼロでもウェルカムです！

国際交流課の 語学サポート・イベント

国際交流課スタッフによる語学学習サポート



国際交流課のコーチングでは、海外経験が豊富な職員が学生一人ひとりの目的や語学力に寄り添い、無理のない学習計画を立てて語学学習をサポートしています。留学を目指す学生はもちろん、将来の進路や興味に応じたさまざまな目標に対応しています。指導は基本的に一対一で、現在は英語・中国語・韓国語のコーチングに対応しています。学習の基礎から応用まで、各自のペースに合わせて進めることができ、疑問や不安も相談しやすい環境が整っています。

スピーキングしようの会

国際交流課では、お昼休みに毎日「スピーキングしようの会」を開催しています。集まった学生は昼食を取りながら、主に英語を使ったスピーキング練習や情報交換、友達作りを楽しめます。語学力は問いません。苦手な学生は得意な学生に教わり、得意な学生はサポートする、互いに刺激し合い学び合えるフレンドリーでわくわくする空間が魅力です。海外志向の学生や国際交流課公認の学生団体Tama International Circle*のメンバーも参加し、楽しく切磋琢磨しながら語学力を高められます。入退室は自由で、日によって集まる人数は異なります。業務の都合や学校閉鎖期間には利用できない場合があります。留学経験ゼロでも、この会を通して海外大学院進学レベルの語学力を身につける学生がいるなど、新しい挑戦や仲間との出会いにあふれた、刺激的で楽しい場です。



*Tama International Circle (TIC)とは

「スピーキングしようの会」の中心メンバーにより2025年度に設立された、国際交流に特化した学生団体です。学年・専攻・国籍・言語の壁を越え、学生同士の交流、言語習得、異文化理解を目的に活動しています。TIC独自のイベントを開催するほか、国際交流課主催の大型イベント（例：国際交流パーティー）の企画・運営もサポートし、国際交流課の頼もしいサポーターとして活躍しています。入会を希望する方は、「スピーキングしようの会」でメンバーを探してみましょう。

国際交流パーティー



国際交流パーティーは、春と秋に年4回（八王子・上野毛で各2回）開催されます。留学生と軽食を囲み、学生が企画したゲームや会話を通して交流を深めます。留学に興味のある方はもちろん、学年や専攻、国籍を問わず気軽に参加できます。日頃から国際交流課を利用する学生が運営し、毎年200名以上が集う暖かな交流の場です。初参加も大歓迎です!!

国際交流パーティー幹事からのひとこと

今年も楽しいパーティーになるようメンバーたちといろいろなアイデアを出し合いながら企画しました。去年よりもっと良いものにするために、パーティーにDJを呼び、留学生の地元プレゼンなど新たな企画も取り入れて、より参加者に楽しんでもらえるパーティーになりました。国際交流パーティーと少し仰々しい名前ですが、いろんな人と話してみたい方や、楽しいイベントが好きな方にはぴったりなイベントだと思っているので、気軽に参加してくれたら嬉しいです。



大塚 楽人
メディア芸術コース

対談

MANIWA's ROOM

マニワさんの部屋

International Exchange

MANIWA'S ROOMは、国際交流課職員の摩庭さんが、学生たちの声を通して多摩美における国際交流の姿を探るインタビュー企画です。今回のゲストは、油画専攻3年（2026年3月時点）の田中歌乃さん。国際交流課とともに過ごしてきた彼女に、その経験と変化について話を聞きました。



田中歌乃さん

油画専攻3年。語学学習と国際交流を日常の一部として取り入れ、英国大学院進学を目指す。アートを軸に、国境を越えた活動への関心を深めている。



摩庭さん

国際交流課職員。留学支援や国際交流プログラムの企画・運営を担当し、学生の挑戦に寄り添い、多摩美と世界を繋ぐ国際交流の機会創出に取り組んでいる。

「ここは、もうひとつのアトリエ」 田中さんが育てた“国際交流の風景”

——国際交流課のラウンジには、人を引き寄せる力がある。授業の合間に立ち寄った学生が、いつの間にか誰かと話し始めている。そんな場所に、学部1年の春から通い続けているのが、油画専攻の田中歌乃さんだ。独学で語学力を磨き、「スピーキングしようの会」と多摩美初の国際交流サークル「Tama International Circle (TIC)」を立ち上げた彼女。その歩みは、国際交流を自らの手で形にしてきた軌跡でもある。

「多摩美」という選択、 そして国際交流センターとの出会い

摩庭 まず、多摩美に入学した理由を教えてください。
田中 高校生のときに画家のヒゲチユウコさんの展示を見に行って、その方が多摩美の油画出身だと知ったのがきっかけです。それまではイラストを描いていたんですけど、自分はずっと自由な表現がしたいと思うようになって。い

ろいろな美大を調べる中で、多摩美は雰囲気も良くて、特に国際交流に力を入れている点に惹かれました。

摩庭 入学してすぐ、国際交流課に来てくれましたよね。
田中 はい。教職課程を取っていたので、交換留学と両立できるのか相談しに来ました。そのとき制度的に難しいと知って、代わりに海外大学院進学という選択肢を教えてくださいました。それが、今の目標につながっています。

ここは、アトリエと同じくらい大切な場所

——交換留学が難しいと知っても、田中さんは国際交流課に通い続けた。その理由を尋ねると、彼女は少し考えてから、静かにこう答えた。

田中 英語を学び続けたいと思ったのが最初の理由です。でも、それだけじゃなくて……この場所の雰囲気が本当に好きなんです。私にとっては、制作をするアトリエと同じくらい大切な場所になっています。

——明るい光が差し込むラウンジ。学生と職員が自然に言葉を交わす距離感。ここでは、肩書きや学年に関係な

く、誰もが「ただの一人の人」として存在している。

田中 最初は少し入りづらいかもしれませんが。でも一度入れば、ここが一番過ごしやすい場所になります。友達も増えるし、自分の世界が広がっていく感覚があります。

英語を話す場所を、自分たちでつくる

——田中さんの代表的な活動のひとつが、「スピーキングしようの会」だ。休休みに集まり、英語で会話をしながら食事をするという、シンプルな集まりである。

田中 英語の勉強って、どうしても大変だとか、怖いとか思いがちじゃないですか。でも、本当はもっと気軽に使っているものだと思うんです。だから、楽しみながら英語を話せる場所を作りたくて始めました。

——現在では、英語力や学年を問わず、多くの学生が参加している。

摩庭 英語が苦手な学生でも大丈夫ですか？

田中 もちろんです。単語だけでもいいし、間違えても大丈夫です。大事なのは、話そうとすること。毎日少しずつ話していれば、必ず慣れてきます。

——実際に、最初はほとんど話せなかった学生が、1年後には後輩をリードする存在になることも珍しくないという。

サークル「TIC」の誕生 そして広がるコミュニティ

——「スピーキングしようの会」から発展して生まれたのが、「Tama International Circle (TIC)」だ。

田中 最初は、もっと色々なことをしてみたいという気持ちから始まりました。英語でトランプをしたり、外食に出かけたり。活動内容はそのときのメンバー次第です。

——設立当初は約20人だったメンバーは、現在では約60人にまで増えている。

摩庭 田中さんのお陰で大きな組織になりましたね。

田中 でも、これは私のサークルではありません。学生が必要として楽しめる場所であれば十分です。私が卒業した後も、自然な形で続いていけば嬉しいです。

——そこには、「作った人」ではなく、「育てる人」としての視点があった。

IELTS 6.0、そしてその先へ イギリス大学院という目標

——田中さんは現在、イギリスの大学院でArts Administrationを学ぶことを目指している。芸術文化事業の企画・運営・管理を通じて、芸術活動を社会に届けるための学問領域だ。

田中 TIC やスピーキングしようの会の運営を通して、「組織を動かすこと」に興味を持ちました。今後もアートに関わりながら、人と人をつなぐ仕事がしたいと思っています。——英語力の証明として受験したIELTSでは、すでに6.0を取得。目標は7.0 だという。

田中 英語は特別な才能ではなく、続けることで身につくのだと思います。私もここで話し続け、成長しました。

「楽しむこと」から、すべては始まる

——最後に、これから多摩美に入学する新入生へのメッセージをお願いします。

田中 とにかく、楽しんでほしいです。制作も英語も友達との時間も、全部です。楽しみながら続ければ、自分でも想像していなかった場所にたどり着けると思います。

——かつて人前で話すのが苦手だったという田中さん。今では学生をつなぐ存在となった。環境は人を変え、人も環境を変える。国際交流課のラウンジに今日も新しい会話が生まれる。その中心に彼女がいるかもしれない。

摩庭さんより

田中さんが初めて国際交流課を訪れてから3年が経ちました。彼女はここで学び、挑戦し、新しいコミュニティを生み出しました。「人と出会い世界を広げる」。その可能性を体現してくれたことに、心から感謝しています。



国際交流課 課長からひとこと

国際交流課
課長

石川 翼

「いつか」を「いま」に変えてみませんか？異国の地で出会う景色や価値観の違いは、教科書では学べない一生モノの財産になります。もちろん不安はあるでしょう。しかし、その一歩こそがあなたを大きく成長させる種となります。失敗を恐れず、広い世界へ飛び込んでください。私たちは、あなたの「挑戦したい」という真っ直ぐな気持ちを全力で応援します。

国際交流課所属教職員



ムーニー・スザヌ

大学院研究科 准教授
UEA (University Education Administrator for Global Engagement)
言語：英語 (木曜在室)



本 真澄

専任職員
言語：英語



摩庭 啓人

専任職員
言語：英語



吉田 玉青

専任職員
言語：英語



牧 祥子

専任職員
言語：中国語・韓国語



栗山 小百合

パート職員

各学科 国際交流課運営委員

日本画 — 陳瓦宇 講師
油画 — 村瀬恭子 教授
版画 — 古谷博子 教授
彫刻 — 中谷ミチコ 准教授
工芸 — 行武治美 教授

グラフィック — 佐賀一郎 准教授
プロダクト — 濱田芳治 教授
テキスタイル — 川井由夏 教授
建築・環境 — 田嶋豊 教授
情報 — 港千尋 教授

芸術学 — 大島徹也 教授
統合 — 佐々木千穂 教授
演劇舞踊 — 加納豊美 教授
リベラルアーツセンター — 前田佳耶 講師
大学院 — 前田佳耶 講師

(2026年3月時点)

国際交流課 お役立ち情報

八王子キャンパス窓口

八王子キャンパス 本部棟2階

開室時間：月～土 9:00～17:30 (休暇期間中を除く)

E-mail: intl-ex@tamabi.ac.jp Tel: 042-679-5605

相談予約フォーム



語学の勉強方法や外国人の友人を作りたい等、些細なことでも、国際交流に関することなら気軽に相談してください。ご希望の方は、相談フォームよりお申し込みください。上野毛キャンパスの学生は、オンラインで相談に乗ることもできます。

上野毛キャンパス国際交流コーナー

上野毛キャンパス 本館2階

リベラルアーツセンター内

開室時間：月～金 9:00～17:00 (休暇期間中を除く)

- 本の貸し出し
- 留学体験記やポートフォリオ閲覧
- 資料の無料配布

交換留学生のサポーター募集！

国際交流課では海外協定校から来る交換留学生のサポートしてくれる学生を随時募集しています。

- 住民登録の手続きをサポート
- 学内で困っていることをサポート
- 部活に参加したい留学生をサポート etc.

X

SNS・Web サイト

X (旧Twitter)



@ Instagram



Web



ブログ



渡航に向けての準備

危機管理

海外に渡航・滞在する際には、安全について日本国内で生活している時とは異なる心構えが必要です。特にテロ、麻薬犯罪等には十分注意してください。また、海外では、日本ではなじみのない感染症が流行している場合があります。海外へ渡航する際には、出発前に渡航先の情勢を十分に認識し、誘拐、脅迫、テロ等の不測の事態に巻き込まれることのないよう、外務省が発出する渡航情報、関連情報ホームページ及び報道等により、最新の関連情報を入手してください。

渡航先の情報収集

留学する国や地域の情報を事前に把握しておくことは重要です。外務省のホームページを確認してください。渡航前に「たびレジ」(3ヶ月未満)や「在留届」(3ヶ月以上)の登録も忘れずに行ってください。現地で事件・事故に巻き込まれた場合に連絡できるよう、渡航先の在外公館の連絡先を確認してください。



パスポートの取得

海外渡航をするとき、必ず用意しなければならないもの、それが「パスポート(日本国旅券)」です。パスポートの申請は基本的に、住んでいる都道府県の窓口で行っています。申請してから発行まで都道府県によって異なりますが、概ね1~2週間程度です。戸籍抄本など必要な書類を用意するのに時間がかかることがありますので、早めに申請の準備をしてください。



ビザの取得

渡航先によってビザの要否・種類が異なります。ビザ申請に関する要件や書類手続き方法は頻繁に変更されます。渡航先の大使館のホームページにはビザ申請だけではなく渡航に関する情報が多く掲載されていますのでよく確認してください。

クレジットカードと銀行口座

海外では多くの現金を持ち歩くのは危険です。ホテル等の予約の際にも必要になりますので渡航前に必ずクレジットカードを取得してください。また、交換留学や中長期の私費留学の際には現地の銀行口座を開設する必要も場合によってはあります。

海外旅行保険の加入

海外で急な病気になったり、事故などで怪我をした場合、渡航先によっては多額の治療費がかかります。日本国内のように健康保険を利用して治療を受けることはできません。個人で渡航する場合にも海外旅行保険は必ず加入しましょう。大学のプログラムで渡航する場合は大学の指定する保険に加入していただけます。通常の保険会社で加入するよりも割安となっています。

日本アイラックによる安心サポート

本学の留学制度を利用した渡航においては、外部危機管理会社のサポートを受けられます。

専用スマートフォンアプリを使った安否確認や24時間年中無休の緊急受付、事故・病気等の相談窓口、有事の際の在外公館や保険会社等と協力し対応する体制を整備しています。

安全対策リンク集

外務省「海外安全ホームページ」

日本政府が収集した世界各国の情報を確認できます。各地域の危険度を色分けした危険情報を確認し、渡航先がどのレベルか必ず確認しましょう。



外務省「海外安全劇場」

海外で巻き込まれる犯罪手法を再現したビデオは必見です。



OTOA 都市別安全情報(社)日本海外ツアーオペレーター協会

国・都市の一般情報や安全情報が確認できます。



外務省「オンライン在留届」

海外に3ヶ月以上滞在の方は登録が義務付けられています。緊急事態発生時には、大使館・総領事館がこの情報を基に安否確認や支援活動を行います。



出発前に登録

外務省「たびレジ」※3ヶ月未満の方対象

登録したメールアドレスに在外公館から現地の最新の安全情報が配信されます。



出発前に登録

在外公館リスト

留学先の最寄りの日本大使館・領事館の場所や連絡先を事前に確認しておきましょう。



留学をサポートする奨学金

奨学金には独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)から支給されるもの、民間の財団から支給されるもの、多摩美から支給されるものなど、さまざまな種類があります。奨学金を利用する場合は、募集が年に1回しかないものが多い上、応募期間も限定されているので、早くから情報を集めることが大切です。

日本学生支援機構(JASSO)・地方自治体・民間団体の奨学金

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)・地方自治体・民間団体の奨学金(給付型・貸与型)については、「海外留学奨学金パンフレット」からご覧ください。日本国内で募集されるものと現地で募集されるものがあります。



奨学金を得るための準備

1. よい成績を収める(高いGPAが求められる)
2. 語学、学力、資格試験を受験する(必要なスコアを準備する)
3. 研究活動を形にする(ポートフォリオや論文など)

多摩美術大学 交換留学生奨学金

対象: 交換留学
人数: 20名程度
支給額: 20万円(給付)

多摩美 TRY 奨学金

対象: 多摩美TRY(メルボルン、ハワイ)
人数: 各10名
支給額: 10万円(給付)

